

地域医療構想に係る対応方針（プラン）

《民間医療機関》

- 医療機能別病床数 . . . 1
 - 現在、自施設の担っている政策医療（5 疾病 5 事業、在宅医療） . . . 2
 - 現在の自施設の課題 . . . 3
 - R7（2025）年において地域で担う役割 . . . 5
 - 今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望 など . . . 7
 - 他機関との連携 . . . 8
 - R7（2025）年において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割 . . . 11
-
- 個票 . . . 13

民間医療機関 対応方針(プラン)

1 呉市

(1)病院		R4.7.1現在						R7.7.1現在					
		総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床
医療機関	提出月												
呉中通病院	R5.3	123			123			123			123		
後藤病院	R5.3	84		48		36		84		48		36	
前田病院	R5.3	76			34	42		76			34	42	
木村眼科内科病院	R5.3	40		40				40		40			
呉記念病院	R5.2	100			50	50		100			50	50	
呉芸南病院	R5.3	137				137		137				137	
青山病院	R5.2	120				120		120			60	60	
マッターホルンリハビリテーション病院	R5.6	64			37	27		84			42	42	
ときわ呉	R5.5	70				60	10	70				60	10
住吉浜病院	R5.2	35				35		35				35	
木村胃腸科病院	R5.3	44				44		44				44	
佐藤病院	R5.5	42					42	20			5	15	
横山病院	R5.7	40			40			40			40		
大矢整形外科病院	R5.3	33			33			33			33		

(2)有床診療所		R4.7.1現在						R7.7.1現在					
		総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床
医療機関	提出月												
角医院	R5.3	19				19		19				19	
安浦診療所	R5.6	19					19	19					19
豊田内科胃腸科	R5.5	19					19	19					19
川西整形外科医院	(未提出)												
末光産婦人科	R5.6	12		12				12		12			
室尾林医院	(未提出)												
眼科突道医院	R5.2	6		6				6		6			
真鍋外科整形外科	R5.6	7					7	7					7
石井外科診療所	R5.3	10			10			10			10		
早川クリニック	R5.6	19				19		19				19	
石泌尿器科医院	R5.5	4					4	4					4
中央内科クリニック	R5.1	19			19			19			19		
にいたにクリニック	R5.3	19		11		8							
かわの内科胃腸科	(未提出)												

2 江田島市

(1)病院		R4.7.1現在						R7.7.1現在					
		総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床
医療機関	提出月												
島の病院おおたに	R5.5	96			70	26		96			70	26	
青木病院	R5.7	78				78		78				78	
大君浜井病院	R5.6	35				35		35				35	

(2)有床診療所		R4.7.1現在						R7.7.1現在					
		総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	総数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床
医療機関	提出月												
森藤医院	R5.6	19			10	9		19			10	9	
澤医院	R5.6	18			5	13		18			5	13	

R5.8.2現在
民間医療機関
33機関中、対応方針(プラン)提出30機関

現在、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)

1 呉市

(1) 病院

呉中通病院	総卒中、在宅医療(訪問リハビリテーション)を担っている。
後藤病院	がん、糖尿病、救急医療、災害時における医療
前田病院	がん、救急医療、在宅医療を担っている。
木村眼科内科病院	眼科領域においては、可能な限りあらゆる疾患に対応しており、急性期～ロービジョンケアが必要な慢性期患者にも対応している。内科領域においては糖尿病や甲状腺などの内分泌疾患や循環器疾患
呉記念病院	超高齢者の入院施設であり当院で発症した患者は極力対応を行っている。
呉芸南病院	慢性期医療を担っている。
青山病院	急性期病院と連携し、急性期、あるいはがん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、骨折などの患者を受け入れ、在宅療養支援病院・かかりつけ医として在宅医療を担う。
マッターホルンリハビリテーション病院	在宅医療を積極的に推進しており、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを提供しているほか、別医療機関となるが訪問看護ステーションを運営している。訪問リハビリテーションにおいては、PT・OTのほかSTを派遣しており、あらゆるリハビリのニーズに対応する体制を整えている。
ときわ呉	難病の利用者を受け入れている。
住吉浜病院	がんフォローアップ治療・療養支援施設 在宅医療および支援
木村胃腸科病院	
佐藤病院	現状として、政策医療は担っていない。
横山病院	脳卒中、救急医療を担っている。
大矢整形外科病院	回復期・在宅患者受け入れ・在宅医療

(2) 有床診療所

角医院	5疾病5事業及び在宅医療(個別の内容は個票に詳細に記載)
安浦診療所	5疾病5事業(周産期医療を除く)、在宅医療の地域の医療体制の充実に協力している。
豊田内科胃腸科	5疾病には対応、在宅総数27名
末光産婦人科	行っていない。
眼科中央道医院	
真鍋外科整形外科	なし
石井外科診療所	整形外科疾患患者・軽症肺炎等の入院加療、がん患者の術後入院でのリハビリテーション、がん患者生活期における外来診療、がん患者の緩和治療、在宅医療、入院による看取り、心不全患者の外来診療、呼吸器疾患に対する在宅酸素療法、糖尿病患者に対する在宅療養支援等を担っている。
早川クリニック	精神疾患、在宅医療(訪問看護)を担っている
石泌尿器科医院	尿路上皮癌(腎、尿管、膀胱、前立腺など)、在宅医療
中央内科クリニック	糖尿病、在宅医療を担っている。
にいたにクリニック	2次救急受け入れ 骨・運動器疾患における専門医療の提供・形成外科疾患外科的手術適応者受け入れ、みなし訪問看護・訪問看護を含む在宅医療を担っている。

2 江田島市

(1) 病院

島の病院おおたに	在宅医療を担っている。
青木病院	がん、脳卒中、心筋梗塞のフォローアップを行っている。糖尿病は治療・指導・教育入院等を行っている。救急医療は1次救急を行っている。江田島市内で起きた災害には可能な限り対応している。在宅医療は訪問診療・訪問看護・訪問リハ・往診・看取りなどを行っている。
大君浜井病院	がん・糖尿病

(2) 有床診療所

森藤医院	救急受け入れ 在宅診療あり。
澤医院	がん、在宅医療を担っている。

現在の自施設の課題

1 呉市

(1) 病院

呉中通病院	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション提供体制をより充実させるためのセラピストの確保 ・回復期を脱し在宅復帰した患者に対するリハビリテーション提供について自院でのフォロー体制拡大
後藤病院	<p>地域の皆様方が不安とならないよう、当院としては現在のベッド数(一般急性期・慢性期)を維持することが重要と考えている。そのための安定した運営のための人員確保が喫緊の課題と考えている。</p>
前田病院	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要の減少が見込まれる。 ・当院が所在する地域は、回りみや地域包括ケア等の回復期機能病床が多く、機能が重複している。 ・新型コロナウイルス感染症流行に伴い、特に、外来患者数が減少したまま回復しておらず、アフターコロナに向けた対応を検討中である。
木村眼科内科病院	<p>勤務医師(眼科医、内科医、麻酔科医)の人員確保が困難になっている点。 地域の他医療機関との連携をより深める必要性。</p>
呉記念病院	<p>回復期病棟としてしっかり機能していきたい。 高齢者介護を医療病棟、介護医療院にてうけているが往診を求められたときに夜間配置医が一人のため、夜間対応が困難。立地的に困難。</p>
呉芸南病院	<p>設備の老朽化。受入れ患者の重症化</p>
青山病院	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要の減少が見込まれること。当院が現在担っている慢性期医療病床が過剰地域であるため検討が必要 ・地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる亜急性期、回復期の医療機関の整備に向けて、基幹病院、近隣の医療機関と連携し、当院の地域で現在担っている役割を理解していただくと共に、当院の役割の再検討が必要 ・重症の透析・神経難病・緩和ケアの患者の医療を行うための慢性期医療病床の必要性を、行政、医師会と連携し病床確保を進める。 ・かかりつけ医、在宅療養支援病院としての救急医療を推し進めるために地域の医療機関との連携
マッターホルンリハビリテーション病院	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、全国的に労働人口が減少していることが見込まれるが、呉市は特に顕著となることが予想される。呉市内で当法人の医療資源が分散しており、自院に集約する必要がある。 ・医師の多くが高齢であり、今後の医師確保に不安が残る。 ・病院が昭和56年以前に建てられた旧耐震基準建築物内で運営されているため、新耐震基準への対応と現建物の除却が必要となっている。 ・職員の離職率が高く、特にセラピストの平均勤続年数が短い傾向にある。
ときわ呉	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市島しょ部に1施設しかなく、地域のニーズに応えきれない。 ・入院枠が足りておらず、在宅に多くの重症心身障害を持っている方が取り残されている。今後、訪問部門を検討するなどが必要。
住吉浜病院	<p>医療必要度が高い(難病など)caseでは医療療養病床で対応し、介護必要度の高いcaseでは併設の介護医療院で対応しているが、介護必要度の低い、慢性期のcaseの在宅移行が困難であり受け皿が少ない。当院でもショートステイ・グループホーム等を企画したが、マンパワーの不足が一番の問題である。</p>
木村胃腸科病院	<p>特になし</p>
佐藤病院	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、人員不足により、入院患者の受け入れを休止しているが、マッターホルンリハビリテーション病院との統合により入院診療を再開する。 ・地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関としての体制の整備が必要。
横山病院	<ul style="list-style-type: none"> ・外来患者の減少(前年同期比10%減) 従来からの事業の見直しを行う。 外来・入院患者の憎悪対策、脳ドックの憎悪対策
大矢整形外科病院	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設の建て替え ・呉医療圏域で不足している急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備に向けて、当院の回復期の機能の向上 ・在宅医療を担う地域支援病院としての機能の向上

(2)有床診療所

角医院	<ul style="list-style-type: none"> ・満床が常態化し、長期入院が多い。本院から在宅あるいは他介護施設、在宅等への移行流動性については困難が多いものの、徐々に改善しつつあり、地域包括ケアシステムでの本院としての役割を十分に果たし、他の介護機関との連携及び本院の在宅医療機能を高めていく必要がある。 ・看護職員、介護職員その他職員等人材確保の困難性、人手不足が大きな問題となる。 ・本院には、有床診療所特有の財務基盤の脆弱性がある。これは1床あたりの保険点数の低さに加え、19床という病床数に起因する費用対効果の低さによるものであり、入院診療単独の収支は、三十年前から常に赤字が継続し、今後も黒字転換することは決してないと想定されるため、いかに赤字を少なくするかが病床を維持・継続してゆくための鍵となる。加えて、現在の物価高を考えると現状の保険点数では今後も厳しい状況が想定され、これは大きなマイナス要素である。元来の費用対効果の低さについては触れたが、本院の規模では病床数の削減に合わせて費用を減らすことはほぼできないのに対し、病床削減に伴う収支差額(1床減、2床減)は以下の如くである。(収支試算の内容は個票に詳細に記載)
安浦診療所	安浦町内の他の診療所、クリニックとの連携体制が脆弱である。
豊田内科胃腸科	病床の廃止
末光産婦人科	特になし
眼科栄道医院	特になし
真鍋外科整形外科	財政状態の悪化、後継者不足
石井外科診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による地域の医療需要の減少が見込まれること ・在宅医療の需要増に対し受け入れ能力に限りがあること
早川クリニック	慢性期患者の高齢化による医療スタッフ負荷の増大
石泌尿器科医院	・高齢で通院困難になってきている患者に対する対応(在宅医療への切り替え、かかりつけ内科への処方依頼など)
中央内科クリニック	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による医療需要の減少が見込まれる。 ・透析治療の病床数の空きが少なく、治療体制の見直しが必要。 ・定年時期が近い職員が多く、今後、新たな人員の確保が必要。 ・物価上昇による医療資材のコストアップ。
にいたにクリニック	2次救急受け入れ後、予定入院期間が2週～4週にて経過良好であっても、生活背景や既往などの合併もあり元の生活への復帰が困難な事例が増加していることが課題にある。包括ケア病床へのスムーズな転院支援及び在宅での生活支援のための訪問看護・リハビリなどの事業の強化により、課題解決を目指す。

2 江田島市

(1)病院

島の病院おおたに	人材の確保 江田島市健診率が低い為、健診体制の確立(手軽に受けられる人間ドック)
青木病院	有資格者の確保
大君浜井病院	地域の医療需要の減少が見込まれることから現状の体制を維持すべきか否か検討が必要

(2)有床診療所

森藤医院	職員の確保が難しくなっている。将来的に維持できない可能性高い。
澤医院	人員不足による無床診療所への変更等、現状を維持すべきか検討が必要。

R7(2025)年において地域で担う役割

1 呉市

(1) 病院

呉中通病院	・現在と同様に呉地域でのリハビリテーションを中心とした回復期医療の提供体制を維持していきつつ、在宅医療の提供体制も拡充して担う。 ・呉圏域でのリハビリテーション専門職(専門医・セラピスト等)の育成にも携わっていききたい。
後藤病院	2025年を間近に控え、当院としてはこれまで通り圏域内の在宅・施設における高齢者救急医療(在宅・施設等での救急憎悪・外傷等)を中心に一般(急性期)病棟を運営し、回復期の過程で在宅・施設復帰も困難となった引き続き医療が必要な方のための慢性期病棟を引き続いて運営していく方針である。
前田病院	・これまで同様、救急告示病院として二次救急を担い、主に回復期機能を担う。 ・現在、当院がかりつけ患者に対する在宅医療を提供中である。今後、在宅療養支援病院となることで、病床を持たない在宅を担う診療所と連携し、地域における在宅患者の急性憎悪時に、当院による入院受け入れを積極的に実施する。
木村眼科内科病院	一般眼科診療とともに、眼科重症疾患に対して積極的に対応していきたい。
呉記念病院	回復期病棟、高齢者の医療介護を担う。
呉芸南病院	慢性期医療を維持していく。
青山病院	・急性期病院、回復期病院、近隣の医療機関と連携し、急性期を脱した患者、骨折後、あるいは脳梗塞後後遺症のリハビリテーションを要する患者、透折患者、神経難病の患者、緩和ケアを要する患者を連携しながら対応していく。 ・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性憎悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。 ・かかりつけ医、あるいは在宅療養支援病院として地域で1次救急、対応可能な2次救急(搬送)は受け入れる。
マッターホルンリハビリテーション病院	・今後とも地域における急性期医療を受けた患者の回復期機能の一翼を担うとともに、慢性期機能を維持する。 ・在宅医療を更に拡大して、急性期医療を受けた患者の生活をシームレスに支援していく。
ときわ呉	・ときわ呉のみでは医療的ケア児への完全な対応はしきれない。 ・在宅への関わり方を検討し、入院以外の取組みを広げていく。 ・スタッフの育成と、職員の専門スキルの習得を進める。
住吉浜病院	在宅等からの急性憎悪した高齢患者を受け入れる機能・寝たきり予防としてのリハビリを中心としたレスパイト入院機能を担う。
木村胃腸科病院	高齢患者の受け入れ、高齢者患者コロナワクチン接種
佐藤病院	・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性憎悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。
横山病院	呉市東部地区およびその周辺の方々に対して、予防・検査・治療およびリハビリテーションなどの医療サービスを提供していくこと。
大矢整形外科病院	・入院治療が必要な、整形外科疾患等への対応を中心とした急性期医療の提供体制を維持していく。 ・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性憎悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。

(2) 有床診療所

角医院	・災害時を含め地域患者の急性期、回復期、慢性期、ターミナルケア全てを可能な限り、コンパクトな範囲で対応することを旨とする。 ・介護関係では、地域包括支援センター、住民患者、各担当ケアマネージャー、介護関連施設の関係者との連携を図り、地域包括ケアシステムの介護と医療の両立に寄与する。 ・地域、学校医として教育委員会担当学校教職員と連携を取り、学童児童の健康管理に尽力する。感染症流行対策も行う。 ・地域の乳幼児の健康管理に関しては、乳幼児健診全ての種類のワクチン接種を積極的に行い、地域乳幼児の健康管理に努める。
安浦診療所	現在よりさらに重要な役割を担うことが予想される。
豊田内科胃腸科	かかりつけ医機能の充実
末光産婦人科	
眼科宍道医院	白内障手術等一般眼科
真鍋外科整形外科	1次医療
石井外科診療所	・急性期病院退院患者を受け入れ、在宅復帰に向けたリハビリ・支援の調整を行う。 ・外来・在宅患者の急性憎悪に対応した入院機能 ・入院が必要な患者の看取り機能

早川クリニック	行政機関からの依頼による精神疾患患者の受け入れ。
石泌尿器科医院	泌尿器科分野における急性期から回復した、また術後安定している患者の受け皿として対応していく
中央内科クリニック	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓内科を中心として展開し、慢性腎臓病の悪化を防ぐ為に、専門性のある治療を行い、必要に応じて基幹病院への紹介を行う。 ・リハビリテーションを織り交ぜた治療で、回復期から慢性期患者の治療を行う。 ・呉市東部(島嶼部含む)の透析治療を支える施設としての役割を担う。
にいたにクリニック	在宅や施設からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割 または 受け入れ後に適材適所に退院支援する。新規の介護保険の申請支援やその後の地域包括・介護サービスへの連携、骨折などの早期治療・早期離床のための 2次救急受け入れを担う。

2 江田島市

(1) 病院

島の病院おおたに	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。
青木病院	入院・入所・在宅での生活等、法人全体(病院・介護老人保健施設・通所リハビリテーション・ヘルパー・居宅介護支援事業所・サービス付き高齢者向け住宅)として地域住民のニーズに応えていく。
大君浜井病院	かかりつけ医としての役割

(2) 有床診療所

森藤医院	現在と同様
澤医院	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会における在宅医療の普及 ・在宅から急性増悪した患者の受け入れ。

今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望 など

1 呉市

(1) 病院

呉中通病院	・回復期のリハビリテーション提供体制は継続していきたいが、今後、地域の医療需要の減少が見込まれるため、現状の規模を維持すべきか否か検討が必要 ・リハビリテーション提供体制維持のための医師確保についても課題が残る。 ・当院および、同法人内介護施設(介護医療院グリーン三條)ともに建物が老朽化してきており、建替えの検討とともに当法人の機能役割を再度見直していきたい。
後藤病院	特になし
前田病院	多職種 of 専門職を確保・充実させ、他の病院、診療所との更なる連携をはかっていく。
木村眼科内科病院	呉医療圏における眼科の重症患者を更に受け入れていきたいが、医師の確保が困難な状況。
呉記念病院	在宅医療を行うにあたって協力して下さる開業医を募集していきたい。
呉芸南病院	設備の改修、建替えの検討、人員の確保
青山病院	医師に関しては、広島大学腎臓内科、脳神経内科医局と連携しながら、確保に努める。
マッターホルンリハビリテーション病院	・法人が運営する2つの医療機関を統廃合し、医療機能を集中・効率化する。また、地域の事業所に向けて予防医療を担うためクリニック広島健診を新しいマッターホルンリハビリテーション病院と同一建物内にすることで、医師を始め、コメディカル職員の有効運用(午前健診・午後病院等)を図り、当法人の経営の健全性を図りながら、患者あるいは利用者の利便性の向上等に繋げる。
ときわ呉	看護師の確保に課題があり。
住吉浜病院	老人人口の減少による利用患者さまの減少・看護介護スタッフの減少
木村胃腸科病院	特になし
佐藤病院	法人が運営する2つの医療機関を統廃合し、医療機能を集中・効率化する。
横山病院	対医療機関との連携強化、介護施設との連携強化
大矢整形外科病院	建て替えに伴う諸課題

(2) 有床診療所

角医院	音戸町、倉橋町の住民が住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域包括ケアシステムでの本院としての役割を果たすために力を入れているが、今後も他の介護機関との連携及び本院の在宅医療機能を高めてゆくためには本院の保有する19床の病床は不可欠であると考えている。 (以下、日本医師会有床診療所委員会の令和3年度中間答申における「有床診療所の在り方」についての記述等、個票に詳細に記載) 当面当該地域における医療需要および医療介護提供体制が大幅に変わることがないと思われる上で、2025年に向かう医療適正提供病床調整対策の観点においても、本院は、今後も地域住民への効率的医療提供に努め、地域包括ケアシステムの中にあつて、高次専門医療機関と在宅及び介護関連機関を繋ぐ“絆”としての有床診療所(繰り返しにはなるが、倉橋島唯一の内科系入院施設として)の役割を、引き続き、19床の病床を全て、1床たりとも欠くことなく、最大限に活用して担って行くことが責務と認識している。
安浦診療所	過疎化に伴う患者数の減少により減収が予想される。公的機関からの支援を要望する。
豊田内科胃腸科	
末光産婦人科	出生数の減少
眼科宍道医院	特になし
真鍋外科整形外科	経営の維持
石井外科診療所	医師の宿日直許可申請を行う予定。看護師の宿日直許可はずでに取得。
早川クリニック	特になし
石泌尿器科医院	医師常勤1人のため休床中であり、増員の予定はないため再運用の見直しは立っていない。
中央内科クリニック	
にいたにクリニック	呉市内における人口減少(流出)が年々進んでいることから、将来的なマンパワー不足や患者様の減少を懸念している。

2 江田島市

(1) 病院

島の病院おおたに	医師の確保に課題があり、近隣の医療機関、介護施設等との連携強化。
青木病院	特になし
大君浜井病院	職員確保

(2) 有床診療所

森藤医院	人口減少、老老介護、限界集落です。
澤医院	コメディカルの確保に課題あり。

他機関との連携

1 呉市

(1) 病院

呉中通病院	(現在) 回復期のリハビリテーション業務を担うことを主として、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院等にて急性期を脱した患者を主に受け入れ、回復期を脱した患者については、在宅または施設へ。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
後藤病院	(現在) 呉圏域内の基幹(高度急性期)病院の後方支援病院として、回復期の患者の受け入れを積極的に行っている。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
前田病院	(現在) 救急告示病院として二次救急を担い、三次救急は呉医療センターへ。主に回復期の役割で在宅復帰に向けた準備を担う。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
木村眼科内科病院	(現在) 眼科領域で急性期を脱した患者については近隣や紹介元医療機関へ相互に紹介を行っているが、まだ充分とは言えない。 (令和7(2025)年) 2次救急・3次救急の医療機関が担うような重症例の受け入れを積極的に行っていきたい。また、急性期を脱した患者については近隣の眼科診療所等へ紹介するなど、他施設と連携した眼科医療の提供に引き続き取り組んでいきたい。
呉記念病院	(現在) 当院亜急性期、回復期病棟、医療療養病棟を担う。 (令和7(2025)年) 急性期を脱した患者については当院にも協力していく。
呉芸南病院	(現在) 慢性期医療を担い、急性期病棟等から自宅に帰る事が困難な方を受け入れている。 (令和7(2025)年) 慢性期医療を担い、急性期病棟等からの受け入れ。
青山病院	(現在) 急性期を脱した亜急性期、回復期、慢性期の患者を急性期病院、回復期病院、近隣の医療機関と連携し、受け入れ、地域医療の向上に努める。 (令和7(2025)年) 2次救急、3次救急は基幹病院へ。1次救急、対応可能な2次救急(搬送)は受け入れ、急性期を脱した亜急性期、回復期、慢性期の受け入れを行う。
マッターホルンリハビリテーション病院	(現在) 急性期医療を受けた患者の受け皿として、近隣の公的医療機関からの患者を積極的に受け入れている。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
ときわ呉	(現在) 呉市島しょ部の重症心身障害児(者)の入院を受け持ち、容態悪化の際には呉共済病院、呉医療センターとの連携を取っている。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
住吉浜病院	(現在) 慢性期に特化している。1次救急を担い、2次救急は連携病院へ搬送。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
木村胃腸科病院	(現在) 呉医療センター、呉共済病院、済生会呉病院、呉中通病院より、入院患者の受け入れ。 (令和7(2025)年) 現在に同じ

佐藤病院	(現在) 一次診療機関として診察後、専門的診察が必要と判断された場合には、呉共済病院、済生会呉病院、呉医療センターへ患者を紹介。診察後のフォローを行っている。 (令和7(2025)年) 今後も圏域内の急性期医療を提供する医療機関の受け皿として、連携をしていく。
横山病院	(現在) 主に回復期を担う。 (令和7(2025)年) リハビリテーションの受け入れ、後方支援施設との連携・情報提供
大矢整形外科病院	(現在) 主に回復期を担うが、救急医療・在宅医療も行っている。 (令和7(2025)年) 急性期病院よりの患者を受け入れる回復期病院としての役割および在宅で急性増悪した患者の受け入れを行う。

(2)有床診療所

角医院	(現在) 病診連携としては主に、呉共済病院、呉医療センター、済生会呉病院、一部、中国労災病院に的確迅速な紹介、情報提供を目標として行い、逆紹介の受け入れも活発にかつ効率的な医療、患者の希望・意志を第一として行っている。又、診療所としての診診連携としては、各医療機関の特長、専門性を重視しながら連携を計り、介護関係としては、各居宅支援事業所、サービス事業所、介護施設と連携し地域に根差した幸せで豊かな生活が送れるように支援している。 (令和7(2025)年) 現在以上の機能分化を意識し、急性期治療を要する患者の紹介と急性期治療を経過した患者の逆紹介を推進する。また、自院の病床の流動性を高めるためにも、介護関係の各施設、各サービス事業所と連携を密にし、在宅医療への移行を計っていく。疾病者理解、了解を第一とした上で圏域病床の有効かつ効率的活用が実施されることに貢献することを旨とする。
安浦診療所	(現在) 中国労災病院をはじめとし、呉市内の2次救急、3次救急病院と連携している。 (令和7(2025)年) 現在よりさらに他機関と連携していることが予想される。
豊田内科胃腸科	(現在) 医師会病院、中国労災病院、国立、共済 (令和7(2025)年) 呉地区における5病院との連携
末光産婦人科	(現在) 2次救急を担い、3次救急は呉医療センターへ。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
眼科宍道医院	(現在) 中国労災病院・広大病院・呉医療センター・木村眼科内科病院 (令和7(2025)年) 現在に同じ
真鍋外科整形外科	(現在) 呉市医師会病院、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院 (令和7(2025)年) 現在に同じ
石井外科診療所	(現在) 1次救急を担い、2次救急は主に中国労災病院・呉共済病院・呉医療センターへ。主に回復期を担う。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
早川クリニック	(現在) 2次、3次救急医療機関との連携 (令和7(2025)年) 現在に同じ
石泌尿器科医院	(現在) 手術、入院が必要である状態の場合、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院、呉市医師会病院などと連携して紹介している。 (令和7(2025)年) 泌尿器科分野における急性期から回復した、また術後安定している患者の受け皿として対応していく。

中央内科クリニック	(現在) 必要時応じて、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院などの基幹病院へ患者を紹介。主に、回復期から慢性期を担う。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
にいたにクリニック	(現在) 2次救急を担い、3次救急は呉医療センター・共済・労災病院等基幹病院へ。急性期を脱した患者については回復期を担う。中通り・横山病院などや、包括ケア病床を持つ医師会・済生会呉病院・横山病院などへ連携を図っている。 (令和7(2025)年) 現在に同じ

2 江田島市

(1) 病院

島の病院おおたに	(現在) 島内の2次救急を担い、3次救急は急性期病院へ。急性期を脱した患者については当院へ。主に回復期を担う。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
青木病院	(現在) 1次救急を行い、当院での対応が難しい患者は広島・呉地域の基幹病院に受入てもらっている。急性期を脱した患者については積極的に逆紹介を受け入れている。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
大君浜井病院	(現在) 急性期医療を脱した患者の回復期の受け入れ。看取り。 (令和7(2025)年) 現在に同じ

(2) 有床診療所

森藤医院	(現在) 江田島市のみならず広島市や呉市の医療機関と連携している。 (令和7(2025)年) 現在に同じ
澤医院	(現在) 可能な範囲での救急の受け入れ。回復期を担う。 (令和7(2025)年) 回復期、慢性期を担う。

R7(2025)年において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割

1 呉市

(1)病院

呉中通病院	各病院で自院の担う機能と役割を分担し、専門性に特化した医療を提供し、呉圏域において漏れなくダブルの医療提供体制をともに築いていきたい。
後藤病院	呉圏域内ではすでに3基幹病院を中心に、その他の病院との連携がスムーズに行われている。これまで通り個々の病院はそれぞれの特徴を活かして運営していただければよいと考えている。
前田病院	病院間の連携を強化し、急性期を脱した患者について、在宅復帰に向け、当院へ紹介をして頂きたい。
木村眼科内科病院	大規模総合病院においては、眼科疾患と合併した重症全身疾患の加療を引き続きお願いしたい。診療所においては、より緊密な病診連携をお願いしたい。
呉記念病院	・回復期のパス関連病院として当院も中国労災病院と連携している。 ・呉医療センター、済生会呉病院、呉共済病院から呉記念病院に回復期をパスしてほしい。
呉芸南病院	スムーズな受入れをお願いしたい。
青山病院	・基幹病院は、圏域内の高度急性期・急性期を担ってほしい。 ・民間病院は、基幹病院から急性期を脱した亜急性期、回復期、慢性期の受け入れを行う。
マッターホルンリハビリテーション病院	今後も地域において回復期機能の一翼を担うとともに、慢性期機能を維持していく予定であるため、急性期医療を提供する役割を期待したい。
ときわ呉	・近隣の重症心身障害児(者)施設は、圏域内のショートステイ受け入れを広げて欲しい。 ・共済病院、呉医療センターなどの総合病院に、現在も受け入れて貰っているが、引き続き急変時に速やかに患者を受け入れて欲しい。
住吉浜病院	高度急性期・回復期機能はもっと短い期間でもいいのではないかと数を増やすよりもっと入院期間を短く多くのcaseを適切に対応して欲しい。
木村胃腸科病院	特になし
佐藤病院	急性期医療の提供
横山病院	入院・外来リハビリテーションの紹介 退院後の支援や入院中の急変時の受け入れ
大矢整形外科病院	呉医療センター・中国労災病院・呉共済病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい。

(2)有床診療所

角医院	・患者の状態に応じた円滑な治療病床移行。当院では急性期治療を経過した本地域の患者、特に在宅や施設系への移行がすぐには困難な患者を積極的に受け入れており、患者の状態に応じた医療機能の提供を行っている。 ・従って、圏域内の他医療機関には本院の地域での役割情報を共有し、互いの施設メリットを十分に活用しあう相互信頼関係を構築していくことが重要である。
安浦診療所	自施設との協力体制を充実させて頂きたい。
豊田内科胃腸科	マイナーな科の在宅診療
末光産婦人科	現状維持
眼科宍道医院	高度医療
真鍋外科整形外科	現状維持
石井外科診療所	・中国労災病院には、圏域内の急性期医療を担ってほしい。 ・呉市医師会病院には、他病院から急性期を脱した回復期、レスパイト入院、高齢患者の検査入院を受け入れてほしい。
早川クリニック	2次、3次救急医療機関の充実
石泌尿器科医院	もう少し逆紹介をして頂きたい。
中央内科クリニック	
にいたにクリニック	在宅や施設からの急性増悪した高齢者を受け入れる場合、基礎疾患の増悪や高齢化により全身状態の悪化が著しいものもあり。また原因不明瞭な症例も多い中、3次受け入れ病院には早期に転院などの受け入れ調整を期待する。またかかりつけ医などで患者側が入院を希望している場合も、受け入れしてもらえない例もあるため、その場合は情報共有などを密に行い、地域全体で個人を診ることができるよう、支援的立場での医療補佐を希望する。

2 江田島市

(1) 病院

島の病院おおたに	・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。
青木病院	特になし
大君浜井病院	2次医療機能として呉医療センター、共済病院へお願いしている。

(2) 有床診療所

森藤医院	現在と同様
澤医院	おおたに病院、浜井病院は基本的に救急要請を断らないでほしい。

吳中通病院 2025プラン(参考資料)

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人社団中川会 吳中通病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	123床
・高度急性期	-
・急性期	-
・回復期	123床
・慢性期	-
・休床	-
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	123床
・高度急性期	-
・急性期	-
・回復期	123床
・慢性期	-
・休床	-
職員数(令和5年3月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 6人, 非常勤 2.5人 ・看護師 常勤 60人, 非常勤 7.1人 ・准看護師 常勤 15人, 非常勤 1.5人 ・薬剤師 常勤 2人, 非常勤 1.1人 ・管理栄養士 常勤 2人, 非常勤 0.5人 ・理学療法士 常勤 42人, 非常勤 3.8人 ・作業療法士 常勤 25人, 非常勤 1.5人 ・言語聴覚士 常勤 7人, 非常勤 1.5人 ・診療放射線技師 常勤 5人, 非常勤 0.0人 ・臨床検査技師 常勤 2人, 非常勤 0.5人 ・社会福祉士 常勤 5人, 非常勤 0.0人 ・事務職員 常勤 25人, 非常勤 2.7人
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績(R4.4.1-R5.1.31))	一般病棟(20床) ・届出入院基本料 : 一般病棟入院基本料(急性期一般入院料6) ・平均在院日数 : 18日 ・病床稼働率 : 88.1% 回復期リハビリテーション病棟A(60床) ・届出入院基本料 : 回復期リハビリテーション病棟入院料1 ・平均在院日数 : 111日 ・病床稼働率 : 94.7% 回復期リハビリテーション病棟B(43床) ・届出入院基本料 : 回復期リハビリテーション病棟入院料1 ・平均在院日数 : 97日 ・病床稼働率 : 94.6%
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	脳卒中、在宅医療(訪問リハビリテーション)を担っている
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	回復期リハビリテーション病院としての機能に専念するため、既存入院患者への対応のみを実施している。
現在(令和5年2月1日現在)の他機関との連携	回復期のリハビリテーション業務を担うことを主として、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院等にて急性期を脱した患者を主に受入れ、回復期を脱した患者については、在宅または施設へ。
現在(令和5年2月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期のリハビリテーション提供体制をより充実させるためのセラピストの確保 ・回復期を脱し在宅復帰した患者に対するリハビリテーション提供について自院でのフォロー体制拡大

項目	
R7年(2025)において地域で担う役割	・現在と同様に呉地域でのリハビリテーションを中心とした回復期医療の提供体制を維持していきつつ、在宅医療の提供体制も拡充して担う。 ・呉圏域でのリハビリテーション専門職(専門医・セラピスト等)の育成にも携わっていききたい。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	各病院で自院の担う機能と役割を分担し、専門性に特化した医療を提供し、呉圏域において漏れなくダブりのない医療提供体制をともに築いていきたい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	脳卒中、在宅医療(訪問リハビリテーション)を実施
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	回復期リハビリテーション病院としての機能に専念するため、既存入院患者への対応のみを実施予定
R7年(2025)の他機関との連携	回復期のリハビリテーション業務を担うことを主として、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院等にて急性期を脱した患者を主に受入れ、回復期を脱した患者については、在宅または施設へ。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	A水準の見込み
建物の建替え、改修予定	時期は未定だが、検討を始めたい
高額医療機器の購入	未定
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	・回復期のリハビリテーション提供体制は継続していきたいが、今後、地域の医療需要の減少が見込まれるため、現状の規模を維持すべきか否か検討が必要 ・リハビリテーション提供体制維持のための医師確保についても課題が残る。 ・当院および、同法人内介護施設(介護医療院グリーン三条)ともに建物が老朽化してきており、建替えの検討とともに当法人の機能役割を再度見直していきたい。

項目	
病院名	医療法人社団 悠仁会 後藤病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	84床
・高度急性期	
・急性期	48床
・回復期	
・慢性期	36床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	84床
・高度急性期	
・急性期	48床(うち新型コロナ対応病床 3床)
・回復期	
・慢性期	36床
・休床	6床
職員数(令和5年3月日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 5人, 非常勤 2人 ・看護師 常勤 26人, 非常勤 2人 ・薬剤師 2人 ・放射線技師 1人 ・理学療法士 2人 ・臨床検査技師 1人
現在(令和5年3月末日現在), 自施設の担っている診療実績(2021年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料: 地域一般入院基本料 3、療養病棟入院料 1 ・一般病棟平均在院日数: 54日(2021年実績) ・病床稼働率: 地域一般入院基本料 73.5%(2021年実績) 療養病棟入院料 1 80.7%(2021年実績)
現在(令和5年3月末日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	がん、糖尿病、救急医療、災害時における医療
現在(令和5年3月末日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	左記の時点で、新興感染症に対する受け入れはできていないが、新型コロナ患者の入院受け入れを開始する予定で、3床の病床確保計画を提出準備中。
現在(令和5年3月末日現在)の他機関との連携	呉圏域内の基幹(高度急性期)病院の後方支援病床として、回復期の患者の受け入れを積極的に行っている。
現在(令和5年3月末日現在)の自施設の課題	地域の皆様方が不安とならないよう、当院としては現在のベット数(一般急性期・慢性期)を維持することが重要と考えている。そのための安定した運営のための人員確保が喫緊の課題と考えている。
R7年(2025)において地域で担う役割	2025年を間近に控え、当院としてはこれまで通り圏域内の在宅・施設における高齢者救急医療(在宅・施設等での急性増悪・外傷等)を中心に一般(急性期)病棟を運営し、回復期の過程で在宅・施設復帰も困難となった引き続き医療が必要な方のための慢性期病棟を引き続いて運営していく方針である。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	呉圏域内ではすでに3基幹病院を中心に、その他の病院との連携がスムーズに行われている。これまで通り個々の病院はそれぞれの特徴を活かして運営していただければよいと考えている。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	がん、糖尿病、救急医療、災害時における医療
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	新型コロナ患者の協力医療機関として入院対応を行っていると思います。
R7年(2025)の他機関との連携	これまで通り、公的基幹(高度急性期)病院の後方支援病院として、回復期の患者の受け入れ等の連携は変わりありません。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	厚生労働省の方針に従って時間外労働、有給休暇、非正規の待遇差といった問題を解決するため廣々と現場で対応を開始している。
建物の建替え, 改修予定	コロナ患者の受け入れ開始に伴う、配管工事を含む病棟改修工事を予定している(3~4月中)。
高額医療機器の購入	現在のところ特になし

今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など

特記なし

項目	記載事項
病院名	医療法人 社団永楽会 前田病院
R4.7.1現在の病床数（総数）	76床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	34床
・慢性期	42床
・休床	0床
R7.7.1現在の予定病床数（総数）	76床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	34床
・慢性期	42床
・休床	0床
職員数（令和5年3月1日現在）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 : 常勤 2名、非常勤 17名 ・看護師 : 常勤 22名、非常勤 4名 ・准看護師 : 常勤 14名、非常勤 5名 ・看護補助者 : 常勤 11名、非常勤 14名 ・理学療法士 : 常勤 2名、非常勤 0名 ・薬剤師 : 常勤 2名、非常勤 0名 ・管理栄養士 : 常勤 1名、非常勤 0名 ・社会福祉士 : 常勤 1名、非常勤 0名 ・事務員 : 常勤 9名、非常勤 1名
現在（令和5年3月1日現在、自施設の担っている診療実績（R3年度実績）	<p>【病棟毎の実績】</p> <p>①地域一般入院料3（22床）：平均在院日数48.02日、病床稼働率88.5%</p> <p>②地域包括ケア入院医療管理料2（12床）：平均在院日数35.94日、病床稼働率59.1%</p> <p>③療養病棟入院基本料1（42床）：平均在院日数149.05日、病床稼働率95.3%</p> <p>【施設毎の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日に受診した患者延数：11人 ・夜間時間外に受診した患者延数：5人 ・救急車の受入れ件数：3件
現在（令和5年3月1日現在）、自施設の担っている政策医療（5疾病5事業、在宅医療）	がん、救急医療、在宅医療を担っている。
現在（令和5年3月1日現在）、自施設の担っている新興感染症等対応	入院：対応できる人員が不足しているため、受け入れていない。 外来：発熱外来の実施。
現在（令和5年3月1日現在）の他機関との連携	救急告示病院として二次救急を担い、三次救急は国立病院機構呉医療センターへ。主に回復期の役割で在宅復帰に向けた準備を担う。

現在（令和5年3月1日現在）の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要の減少が見込まれる。 ・当院が所在する地域は、回リハや地域包括ケア等の回復期機能病床が多く、機能が重複している。 ・新型コロナウイルス感染症流行に伴い、特に、外来患者数が減少したまま回復しておらず、アフターコロナに向けた対応を検討中である。
R7年（2025）において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、救急告示病院として二次救急を担い、主に回復期機能を担う。 ・現在、当院かかりつけ患者に対する在宅医療を提供中である。今後、在宅療養支援病院となることで、病床を持たない在宅を担う診療所と連携し、地域における在宅患者の急性増悪時に、当院による入院受け入れを積極的に実施する。
R7年（2025）において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・病院間の連携を強化し、急性期を脱した患者について、在宅復帰に向け、当院へ紹介をして頂きたい。
R7年（2025）、自施設の担っている政策医療（5疾病5事業、在宅医療）	がん、救急医療、在宅医療を担う。
R7年（2025）、自施設の担っている新興感染症等対応	<p>入院：対応できる人員が不足しているため受け入れていないが、今後可能な範囲で受け入れていく。</p> <p>外来：発熱外来の実施</p>
R7年（2025）の他機関との連携	現状同様に、救急告示病院として二次救急を担い、三次救急は国立病院機構呉医療センターへ。引き続き、主に回復期の役割で、在宅復帰に向けた準備を担う。
R6年（2024）からの働き方改革への対応について	R5年中に宿日直申請を届出予定。
建物の建替え、改修予定	予定なし。
高額医療機器の購入	予定なし。
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	多職種 of 専門職を確保・充実させ、他の病院、診療所との更なる連携をはかっていく。

木村眼科内科病院 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人社団ひかり会 木村眼科内科病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	40
・高度急性期	
・急性期	40
・回復期	
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	40
・高度急性期	
・急性期	40
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年2月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 8人, 非常勤 7人 ・看護師 常勤 39人, 非常勤 3.8人 ・薬剤師 常勤 2人, 非常勤 1人 ・管理栄養士 常勤 2人 ・視能訓練士 常勤 15人 ・社会福祉士 常勤 1人
現在(令和5年1月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料 急性期一般病棟入院料6 ・平均在院日数 2.7日 ・病床稼働率 49.2%
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	眼科領域においては、可能な限りあらゆる疾患に対応しており、急性期～ロビージョンケアが必要な慢性期患者にも対応している。 内科領域において糖尿病や甲状腺などの内分泌疾患や循環器疾患
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期の眼科医療提供体制を維持するため受け入れは行っていない
現在(令和5年3月1日現在)の他機関との連携	眼科領域で急性期を脱した患者については近隣や紹介元医療機関へ相互に紹介を行っているが、まだ充分とは言えない。
現在(令和 年 月 日現在)の自施設の課題	勤務医師(眼科医、内科医、麻酔科医)の人員確保が困難になっている点。 地域その他医療機関との連携をより深める必要性。
R7年(2025)において地域で担う役割	一般眼科診療とともに、眼科重症疾患に対して積極的に対応していきたい
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	大規模総合病院においては、眼科疾患と合併した重症全身疾患の加療を引き続きお願いしたい。 診療所においては、より緊密な病診連携をお願いしたい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	予定なし
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	ほぼ眼科に特化した医療提供体制のため、新興感染症等への対応の予定はなし

R7年(2025)の他機関との連携	2次救急・3次救急の医療機関が担うような重症例の受け入れを積極的に行っていきたい。また、急性期を脱した患者については近隣の眼科診療所等へ紹介するなど、他施設と連携した眼科医療の提供に引き続き取り組んでいきたい。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状はおおむね対応できているが、現状の医療体制の維持のためには継続して勤務医の確保が必要。
建物の建替え、改修予定	2015年に現在地へ病院移転しており、建替え等の予定はなし ※その際、許可病床数は48床から40床へ減床した
高額医療機器の購入	予定なし
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	呉医療圏における眼科の重症患者を更に受け入れていきたいが、医師の確保が困難な状況。

医療法人社団 有信会 呉記念病院 2025プラン(参考資料)

令和5年2月

病院名	医療法人社団 有信会 呉記念病院	
所在地	広島県呉市郷原町2379番地42	
診療科目	内科・整形外科・泌尿器科・リハビリテーション科	
R4.7.1現在の病床数(総数)	100 床	
・回復期	50 床	
・慢性期	50 床	
・休床	0 床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	100 床	
・回復期	50 床	
・慢性期	50 床	
・休床	0 床	
職員数(令和5年2月28日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 5人, 非常勤 2人 ・看護師 常勤 19人, 非常勤 14人 ・准看護師 常勤 13人, 非常勤 5人 ・理学療法士 常勤 12人, 非常勤 0人 ・作業療法士 常勤 10人, 非常勤 1人 ・言語聴覚士 常勤 2人, 非常勤 0人 ・薬剤師 常勤 1人, 非常勤 2人 ・臨床検査技師 常勤 1人, 非常勤 0人 ・管理栄養士 常勤 1人, 非常勤 0人 ・放射線技師 常勤 1人, 非常勤 0人 ・介護支援専門員 常勤 2人, 非常勤 0人 ・社会福祉士 常勤 3人, 非常勤 0人 ・介護福祉士 常勤 15人, 非常勤 3人 ・介護士 常勤 9人, 非常勤 18人 ・事務職員(その他) 常勤 14人, 非常勤 5人 	
現在(令和5年2月28日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)	医療療養病床稼働率	84.58 %
	回復期病床稼働率	74.09 %
現在(令和5年2月28日現在), 自施設の担っている政策医療 (5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療	
現在(令和5年2月28日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	超高齢者の入院施設であり当院で発症した患者は極力対応を行っている	
現在(令和5年2月28日現在)の 他機関との連携	当院亜急性期、回復期病棟、医療療養病棟を担う。	
現在(令和5年2月28日現在)の 自施設の課題	回復期病棟としてしっかり機能していきたい。 高齢者介護を医療病棟、介護医療院にうけているが往診を求められたときに夜間配置医が一人のため、夜間対応が困難。立地的に困難。	

R7年(2025)において地域で担う役割	回復期病棟、高齢者の医療介護を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	回復期のパス関連病院として当院も中国労災病院と連携している。呉医療センター、呉済生会病院、呉共済病院がから呉記念病院に回復期をパスしてほしい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	在宅医療
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	引き続き、ワクチン接種は行っていく。中国労災病院のICTと連携していく。
R7年(2025)の他機関との連携	急性期を脱した患者については当院も協力していく。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	医師が働きやすい環境を確保し、医師の確保に努めていく。
建物の建替え、改修予定	20年たつため、エアコン、電気など改修工事を行っている。
高額医療機器の購入	CTは更新していく予定。
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	在宅医療を行うにあたって協力してくださる開業医を募集していきたい。

呉芸南病院 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	呉芸南病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	137床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	137床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	137床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	137床
・休床	
職員数(令和5年3月22日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人, 非常勤 1.972人 ・看護師 常勤 11人, 非常勤 2.97人 ・准看護師 常勤 18人, 非常勤 1.83人
現在(令和5年3月 日現在), 自施設の担っている診療実績 (3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟 38床 特別入院基本料 病床稼働率 50~65% ・療養病棟 99床 療養病棟入院基本料2 病床稼働率 70~85%
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	慢性期医療を担っている
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	設備的な理由で受け入れていない
現在(令和5年3月現在)の他機関との連携	慢性期医療を担い、急性期病院等から自宅に帰る事が困難な方を受入れている
現在(令和5年3月現在)の自施設の課題	設備の老朽化。受入れ患者の重症化
R7年(2025)において地域で担う役割	慢性期医療を維持していく
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	スムーズな受入れをお願いしたい
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	慢性期医療を担う
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	設備的な理由で受け入れない
R7年(2025)の他機関との連携	慢性期を担い、急性期病院等からの受入れ
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・現状の医療提供体制の確保のために医師は確保が課題
建物の建替え, 改修予定	予定時期は未定だが建物が古く建替え、改修を検討中
高額医療機器の購入	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	設備の改修、建替えの検討。人員の確保

医療法人せいざん青山病院 2025プラン(案)

令和5年2月作成

項目	
病院名	医療法人せいざん 青山病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	120床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	60床
・慢性期	60床
・休床	
職員数(令和5年1月31日現在)	・医師 常勤3人, 非常勤 19人 ・看護師・准看護師 常勤 28人, 非常勤 28人 ・薬剤師 常勤2人, 非常勤2人 理学療法士 2名 臨床工学技士5名
自施設の担っている診療実績(令和4年2月～令和5年1月)	★一般病棟60床(障害者施設等入院基本料10:1、平均入院患者数54人、平均在院日数144日、病床稼働率90%) ★療養病棟60床(療養病棟入院基本料1、平均入院患者数53人、平均在院日数617日、病床稼働率88%) ★慢性維持透析療法7798回、経皮的血管拡張術32件、軽症外科手術(局所麻酔)20件 ★訪問診療55回、往診2回、救急車受け入れ件数3件
現在(令和5年1月31日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	急性期病院と連携し、急性期、あるいはがん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、骨折などの患者を受け入れ、在宅療養支援病院・かかりつけ医として在宅医療を担う
現在(令和5年1月31日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	重症の透析、神経難病、緩和ケアの患者の受け入れているので、新興感染症等の患者は受け入れていない。但し院内クラスターが発生した場合は当院で対応。発熱外来、回復期患者は受け入れる
現在(令和5年1月31日現在)の他機関との連携	急性期を脱した亜急性期、回復期、慢性期の患者を急性期病院、回復期病院、近隣の医療機関と連携し、受け入れ、地域医療の向上に努める
現在(令和5年1月31日現在)の自施設の課題	・地域の医療需要の減少が見込まれること、当院が現在担っている慢性期医療病床が過剰地域であるため検討が必要 ・地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる亜急性期、回復期の医療機関の整備に向けて、基幹病院、近隣の医療機関と連携し、当院の地域で現在担っている役割を理解していただくと共に、当院の役割の再検討が必要 ・重症の透析・神経難病・緩和ケアの患者の医療を行うための慢性期医療病床の必要性を、行政、医師会と連携し病床確保を進める ・かかりつけ医、在宅療養支援病院としての救急医療を推し進めるために地域の医療機関との連携
R7年(2025)において地域で担う役割	・急性期病院、回復期病院、近隣の医療機関と連携し、急性期を脱した患者、骨折後、あるいは脳梗塞後遺症のリハビリテーションを要する患者、透析患者、神経難病の患者、緩和ケアを要する患者を連携しながら対応していく ・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う ・かかりつけ医、あるいは在宅療養支援病院として地域で1次救急対応可能な2次救急(搬送)は受け入れる
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・基幹病院は、圏域内の高度急性期・急性期を担ってほしい。 ・民間病院は、基幹病院から急性期を脱した亜急性期、回復期、慢性期の受け入れを行う
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	急性期を脱したがん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、骨折などの患者を受け入れ、在宅療養支援病院として在宅医療を担う
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	重症の透析、神経難病、緩和ケアの患者の受け入れているので、新興感染症等の患者は受け入れていない。但し院内クラスターが発生した場合は当院で対応。発熱外来、回復期患者は受け入れ、クラスター前の少数は
R7年(2025)の他機関との連携	2次救急、3次救急は基幹病院へ。1次救急、対応可能な2次救急(搬送)は受け入れ、急性期を脱した亜急性期、回復期、慢性期の医療を基幹病院と連携しながら担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・断続的な宿直・日直勤務許可の取得、医師の働き方改革A水準取得 ・広島大学腎臓内科、脳神経内科、呉医療センター等と連携し医師確保に努める

建物の建替え, 改修予定	本館築41年、中央館築36年、新館築18年経過しているので、今後建て替え、あるいは改修に向けて、亜急性期、回復期、慢性期等の医療機能の充実のため、また院内感染が発生した場合の新興感染症対策対応の病床の確保等を視野にいれる
高額医療機器の購入	医師及びその他の医療従事者の労働時間短縮、医師の検査や処方を電子的に管理するための設備として電子カルテを導入予定。5年以内
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	医師に関しては、広島大学腎臓内科、脳神経内科医局と連携しながら、確保に努める。

マッターホルンリハビリテーション病院 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	医療法人エム・エム会 マッターホルンリハビリテーション病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	64床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	37床
・慢性期	27床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	84床(佐藤病院と統合予定)
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	42床
・慢性期	42床
・休床	
職員数(令和5年6月現在)	医師 常勤3.0人 非常勤0.9人 薬剤師 常勤1.0人 非常勤0.3人 管理栄養士 常勤3.0人 看護師 常勤27.2人 非常勤2.3人 准看護師 常勤12.0人 非常勤0.8人 看護補助 常勤17.0人 非常勤2.5人 理学療法士 常勤36.0人 非常勤1.7人 作業療法士 常勤7.0人 言語聴覚士 常勤10.0人 事務職員 常勤18.0人 非常勤0.6人
現在(令和5年6月現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)	病床稼働率 回復期 94.9%, 慢性期 94.6% 平均在院日数 回復期 68.9日, 慢性期 116.5日 休日・夜間・時間外の受診患者 0人(救急告示無し)
現在(令和5年6月現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療を積極的に推進しており、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを提供しているほか、別医療機関となるが訪問看護ステーションを運営している。訪問リハビリテーションにおいては、PT・OTのほかSTを派遣しており、あらゆるリハビリのニーズに対応する体制を整えている。
現在(令和5年6月現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	現状として、他医療機関からの受け入れはしていない。自院での発生患者は自院での治療を優先している。
現在(令和5年6月現在)の他機関との連携	急性期医療を受けた患者の受け皿として、近隣の公的医療機関からの患者を積極的に受け入れている。
現在(令和5年6月現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、全国的に労働人口が減少していることが見込まれるが、呉市は特に顕著となることが予想される。呉市内で当法人の医療資源が分散しており、自院に集約する必要がある。 ・医師の多くが高齢であり、今後の医師確保に不安が残る。 ・病院が昭和56年以前に建てられた旧耐震基準建築物内で運営されているため、新耐震基準への対応と現建物の除却が必要となっている。 ・職員の離職率が高く、特にセラピストの平均勤続年数が短い傾向にある。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域における急性期医療を受けた患者の回復期機能の一翼を担うとともに、慢性期機能を維持する。 ・在宅医療を更に拡大し、急性期医療を受けた患者の生活をシームレスに支援していく。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	今後も地域において回復期機能の一翼を担うとともに、慢性期機能を維持していく予定であるため、急性期医療を提供する役割を期待したい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現在取り組んでいる在宅医療(訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション)の規模を更に拡大し、地域医療に貢献する。また呉市の島しょ部などにサービスエリアを拡大する。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	・今後は、急性期を脱した患者の受け入れをする。自院での発生患者は自院での治療を優先する。

R7年(2025)の他機関との連携	急性期医療を受けた患者の受け皿として、近隣の公的医療機関からの患者を積極的に受け入れる。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・現行ではA水準に該当するが、当直医師の確保については他医療機関からの派遣に頼っており、派遣元機関の体制変更等によって大きく影響を受ける(場合によっては体制の確保が困難となる可能性)という課題がある。 ・法人内の医療機能を集中・効率化して利便性を高めるとともに、限られた人的資源をうまく活用することで働き方改革に対応していく。
建物の建替え, 改修予定	・令和7年度に建替え(移転・新築)予定。基本設計および実施設計、工事着工を令和5年度中に行い、令和7年中に竣工、開院を予定とする。
高額医療機器の購入	・移転新築に合わせて、MRIおよびCTを購入予定。同一建物内で共同利用とする予定。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・法人が運営する2つの医療機関を統廃合し、医療機能を集中・効率化する。また、地域の事業所に向けて予防医療を担うためクリニック広島健診を新しいマッターホルンリハビリテーション病院と同一建物内にすることで、医師を始め、メディカル職員の有効運用(午前健診・午後病院等)を図り、当法人の経営の健全性を図りながら、患者あるいは利用者の利便性の向上等に繋げる。

重症心身障害児施設ときわ呉 2025プラン

項目	
病院名	重症心身障害児施設ときわ呉
R4.7.1現在の病床数(総数)	70床
・高度急性期	0床 未対応
・急性期	0床 未対応
・回復期	0床 未対応
・慢性期	60床 重症障害児(者)施設
・休床	10床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	70床
・高度急性期	0床 未対応
・急性期	0床 未対応
・回復期	0床 未対応
・慢性期	60床 重症障害児(者)施設
・休床	10床
職員数(令和4年7月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 2人 ・看護師 常勤 27人, 非常勤 3人 <その他, 薬剤師, 言語療法士など, 必要に応じて追記してください。>
現在(令和4年7月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟毎(当施設は医療型障害児(者)入所施設です。稼働率:) ・施設毎(予約での診察となっています。時間外、夜間はありません。) ※1 平均在院日数=在棟患者延べ数(年間)/((新規入棟患者数(年間)+退棟患者数(年間))/2) ※2 稼働率=在棟患者延べ数(年間)/(稼働病床数*365(稼働日数))
現在(令和4年7月1日現在)	難病の利用者を受け入れている。
現在(令和4年7月1日現在)	重症心身障害に適合する利用者を受け入れているが、適合に無い方の利用は受け入れていない。
現在(令和4年7月1日現在)の他機関との連携	呉市島しょ部の重症心身障害児(者)の入院を受け持ち、容態悪化の際には呉共済病院、呉医療センターとの連携を取っている。
現在(令和4年7月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市島しょ部に1施設しかなく、地域のニーズに応えきれない。 ・入院枠が足りておらず、在宅に多くの重症心身障害を持っている方が取り残されている。今後、訪問部門を検討するなどが必要。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ときわ呉のみでは医療的ケア児への完全な対応はしきれない。 ・在宅への関わり方を検討し、入院以外の取組みを広げていく。 ・スタッフの育成と、職員の専門スキルの習得を進める。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の重症心身障害児(者)施設は、圏域内のショートステイ受け入れを広がって欲しい。 ・共済病院、呉医療センターなどの総合病院に、現在も受け入れて貰っているが、引き続き急変時に速やかに患者を受け入れて欲しい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん、心筋梗塞を担う予定、在宅医療を拡大していく、など
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	重症患者受入れ、急性期を脱した患者を受入れ、〇〇の理由で受け入れない、など
R7年(2025)の他機関との連携	2次救急を担い、3次救急は〇〇病院へ。急性期を脱した患者については〇〇病院へ。主に回復期を担う、など
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・年間公休日以外の有給休暇等の取得しやすい環境の構築。 ・現状の医療提供体制の確保のための常勤医の確保は行えた。
建物の建替え、改修予定	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場用地の取得を予定。 ・建設して10年を超えたので、施設内の空調や建物自体の不備力所の修繕。
高額医療機器の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・CT撮影装置を年内、超音波画像診断装置を7月までに導入予定。 ・他医療機関との共同利用はなく、施設の利用者に限り使用。
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	看護師の確保に課題があり。

一般財団法人広島結核予防協会住吉浜病院 2025プラン

令和5年2月作成

項目	
病院名	一般財団法人広島結核予防協会住吉浜病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	35
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	0
・慢性期	35
・休床	0
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	35
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	0
・慢性期	35
・休床	0
職員数(令和5年2月1日現在)	医師 常勤2人、非常勤 看護補助者 常勤7人、非常勤2人 看護師 常勤6人、非常勤7人 放射線技師 常勤1人 薬剤師 常勤1人 管理栄養士 常勤1人 理学療法士 常勤1人、非常勤1人
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている診療実績(3年度実績)	届出入院基本料:療養病床入院料2、平均在院日数:271日 病床稼働率:97.4% 休日診療患者数:46人、時間外診療患者数:51人
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	がんフォローアップ治療・療養支援施設 在宅医療および支援
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来にて外来患者を受入れ、重症度に応じた対応をしている(トリアージ機能)また、急性期を脱した慢性期患者を受入れている
現在(令和5年2月1日現在)の他機関との連携	慢性期に特化している。1次救急を担い、2次救急は連携病院へ搬送。
現在(令和5年2月1日現在)の自施設の課題	医療必要度が高い(難病など)caseでは医療療養病床で対応し、介護必要度の高いcaseでは併設の介護医療院で対応しているが、介護必要度の低い、慢性期のcaseの在宅移行が困難であり受け皿が少ない。当院でもショートステイ・グループホーム等を企画したが、マンパワーの不足が一番の問題である。
R7年(2025)において地域で担う役割	在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる機能・寝たきり予防としてのリハビリを中心としたレスパイト入院機能を担う
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	高度急性期・回復期機能はもっと短い期間でもいいのではないか?数を増やすよりもっと入院期間を短く多くのcaseを適切に対応して欲しい
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	がんフォローアップ治療・療養支援施設 在宅医療および支援(遠隔診療含む)
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来機能については継続予定。
R7年(2025)の他機関との連携	慢性期に特化して継続する予定。1次救急を担い、2次救急は連携病院へ搬送。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	2024年4月までにA水準の適用を目指し、連携B水準の医療機関と連携し医師の確保ができる予定。
建物の建替え, 改修予定	予定はない。
高額医療機器の購入	予定はない。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	老人人口の減少による利用患者さまの減少・看護介護スタッフの減少

木村胃腸科病院 2025 プラン

令和5年3月1日作成

項目	内容
病院名	医療法人 恵信会 木村胃腸科病院
R4.7.1 現在の病床数(総数)	
・慢性期	44床
R7.7.1 現在の予定病床数(総数)	
・慢性期	44床
職員数(令和5年3月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤2人、 非常勤2人 ・看護師 常勤7人、 非常勤2人 ・准看護師 常勤4人、 非常勤3人 ・薬剤師 常勤1人 ・看護師 常勤7人、 非常勤2人 ・管理栄養士 常勤1人 ・看護補助者 常勤8人、 非常勤2人 ・その他 常勤5人
現在(令和5年3月1日現在)、自施設の担っている診療実績(4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・病床毎(療養病棟入院料 1) ・施設毎(平均在院日数283日、稼働率86%)
現在(令和5年3月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	コロナワクチン接種
現在(令和5年3月1日現在)、自施設の外機関との連携	呉医療センター、呉共済病院、済生会呉病院、呉中通病院より、入院患者の受け入れ
現在(令和5年3月1日現在)、自施設の課題	特になし
R7年(2025)において地域で担う役割	高齢患者の受け入れ、高齢者患者コロナワクチン接種
R7年(2025)において圏域内の他の医療期間に果たしてほしい役割	特になし
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	特になし
R7年(2025)の外機関との連携	呉医療センター、呉共済病院、済生会呉病院、呉中通病院より、入院患者の受け入れ
R6(2024)からの働き方改革への対応について	看護師、看護補助者の確保
建物の建替え、改修予定	なし
高額医療機器の購入	なし
今後の自施設の課題、不安要素、他医療期間との連携希望、など	特になし

佐藤病院 2025プラン

令和5年5月作成

項目	
病院名	佐藤病院 (医療法人エム・エム会)
R4.7.1現在の病床数(総数)	42床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	42床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	20床(マッターホルンリハビリテーション病院に統合予定)
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	5床(マッターホルンリハビリテーション病院に統合予定)
・慢性期	15床(マッターホルンリハビリテーション病院に統合予定)
・休床	
職員数(令和5年4月1日現在)	・医師 常勤 1人, 非常勤 0.328人 ・看護師 常勤 0人, 非常勤 0.3人
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	入院: 患者の受け入れを休止中のため、診療実績なし 外来: 平均外来患者数4.98人
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現状として、政策医療は担っていない。
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	現状として、他医療機関からの受け入れ等はしていない。
現在(令和5年4月1日現在)の他機関との連携	一次診療機関として診察後、専門的診察が必要と判断された場合には、呉共済病院、済生会呉病院、呉医療センターへ患者を紹介。診察後のフォローを行っている。
現在(令和5年4月1日現在)の自施設の課題	・現在、人員不足により、入院患者の受け入れを休止しているが、マッターホルンリハビリテーション病院との統合により入院診療を再開する。 ・地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関として体制の整備が必要。
R7年(2025)において地域で担う役割	・地域における回復期機能の一翼を担う ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	急性期医療の提供
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・今後も、地域における急性期医療を受けた患者の回復期機能の一翼を担うとともに、慢性期機能を維持していく。同時に在宅医療(訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション)を更に拡大していく。 ①病院では退院～在宅への復帰を意識したリハビリテーションを提供し、在宅復帰後も患者自身がリハビリを継続していける環境作りを行う。 ②地域に復帰した患者が地域社会での生活を持続していけるよう、あらゆる角度から支援を提供する。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	・統合した後は、急性期を脱した患者の受け入れをする。自院での発生患者は自院での治療を優先する。
R7年(2025)の他機関との連携	今後も圏域内の急性期医療を提供する医療機関の受け皿として、連携をしていく。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・法人が運営する2つの医療機関を統廃合し、医療機能を集中・効率化することで、利便性を高めるとともに、限られた人的資源をうまく活用することで働き方改革に対応していく。
建物の建替え, 改修予定	・令和7年に建替え(移転・新築)予定。基本設計および実施設計、工事着工を令和5年度中に行い、令和7年に竣工、開院を予定とする。
高額医療機器の購入	・移転新築に合わせて、MRIおよびCTを購入予定。同一建物内で共同利用とする予定。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・法人が運営する2つの医療機関を統廃合し、医療機能を集中・効率化する。

横山病院 2025プラン

令和5年7月作成

項目	
病院名	医療法人社団薫風会横山病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	40床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	40床
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	40床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	40床
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年7月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人、非常勤 8人 ・看護婦 常勤 19人、非常勤 4人 ・その他 薬剤師:2人、理学療法士:3人、作業療法士:2人、言語療法士:2人 放射線技師:4名(内非常勤2名)、臨床検査技師:2名、社会福祉士:2人 管理栄養士:2人、栄養士:3人、調理員:3人、事務:9人(内非常勤2人)
現在(令和5年7月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<p>地域一般入院料1、平均在院日数23日、病床稼働率29.6%</p> <p>地域包括ケア入院管理料2、平均在院日数30日、病床稼働率29.6%</p>
現在(令和5年7月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	脳卒中中、救急医療を担っている
現在(令和5年7月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	県の要請に応じて受け入れ
現在(令和5年7月1日現在)の他機関との連携	主に回復期を担う
現在(令和5年7月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外来患者の減少(前年同期比10%減) ・従来の事業の見直しを行う。 ・外来・入院患者の増患対策、脳ドックの増患対策
R7年(2025)において地域で担う役割	呉市東部地区およびその周辺の方々に対して、予防・検査・治療およびリハビリテーションなどの医療サービスを提供していくこと。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<p>入院・外来リハビリテーションの紹介</p> <p>退院後の支援や入院中の急変時の受け入れ</p>
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	2次救急医療体制、脳卒中回復期リハビリテーションの提供
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	即応病床の確保
R7年(2025)の他機関との連携	リハビリテーションの受け入れ、後方支援施設との連携・情報提供
R6(2024)からの働き方改革への対応について	医師の働き方改革・・・タスクシフトの推進
建物の建替え、改修予定	<p>2階ナースステーション室の改修(2023年6月)</p> <p>手術室も改修(2023年11月以降予定)</p> <p>訪問看護ステーションの設置(2024年3月予定)</p>
高額医療機器の購入	高額医療機器の購入については、当面は予定していない
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	対医療機関との連携強化、介護施設との連携強化

大矢整形外科病院 2025プラン

令和5年3月10日 作成

項目	記載例
病院名	医療法人社団 慈正会 大矢整形外科病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	33床
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	33床
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年2月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 4人、非常勤 6人 ・薬剤師 常勤 1人 ・看護師 常勤 9人 ・准看護師 常勤 7人、非常勤 2人 ・看護補助者 常勤 7人、非常勤 3人 ・社会福祉士 常勤 1人 ・理学療法士 常勤 1人、非常勤 2人 ・管理栄養士 常勤 1人 ・作業療法士 常勤 4人、非常勤 1人 ・その他職員 常勤8人、非常勤 8人
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (R3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料:地域包括ケア病棟入院料4 ・平均在院日数:41日 ・病床稼働率:79.5% ・休日に受診した患者数 7人 ・夜間時間外に受診した患者数 7人 ・救急車受入件数 87件
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	回復期・在宅患者受け入れ・在宅医療
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入している。
現在(令和 年 月 日現在)の他機関との連携	主に回復期を担うが、救急医療・在宅診療も行っている。
現在(令和 年 月 日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設の建て替え ・呉医療圏域で不足している急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備に向けて、当院の回復期の機能の向上 ・在宅医療を担う地域支援病院としての機能の向上
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・入院治療が必要な、整形外科疾患等への対応を中心とした急性期医療の提供体制を維持していく ・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・呉医療センター・中国労災病院・呉共済病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	回復期・在宅患者受け入れ・在宅医療
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者の受入を行う。
R7年(2025)の他機関との連携	急性期病院よりの患者を受け入れる回復期病院としての役割および在宅で急性増悪した患者の受け入れを行う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・可能なかぎり対応する。
建物の建替え, 改修予定	・令和5年夏～秋ごろにかけて隣接敷地に病院新築開始予定。
高額医療機器の購入	・病院新築事業に合わせCT検査装置を導入予定。近隣の医療機関との共同利用も計画中。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	建て替えに伴う諸問題。

医療法人社団向日葵会角医院 2025 プラン

令和 5 年 3 月作成

項目	
病院名	医療法人社団向日葵会角医院
令和 5 年 1 月現在の病棟数 (総数)	19 名
・高度急性期	0 名
・急性期	0 名
・回復期	0 名
・慢性期	19 名
・休床	0 名
令和 7 年 7 月 1 日現在の予定病床数 (総数)	19 名
・高度急性期	0 名
・急性期	0 名
・回復期	0 名
・慢性期	19 名
・休床	0 名
職員数 (令和 5 年 1 月 19 日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2 名 ・看護師 常勤 8 名 非常勤 14 名 ・管理栄養士 常勤 1 名 ・鍼灸師 常勤 1 名
現在 (令和 5 年 1 月 19 日現在)、自施設の担っている診療実績 (2020 年度・2021 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 有床診療所入院基本料 1 ● 平均在院日数 <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度 : 372.8 日 ・2021 年度 : 293.4 日 ● 病床稼働率 <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度 : 102.1% ・2021 年度 : 103.6% ● 休日受診患者数 (時間外加算、深夜加算、夜間・早朝等加算算定患者) <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度 : 407 件 (うち休日往診加算 178 件) ・2021 年度 : 367 件 (うち休日往診 1 加算 44 件) ● 夜間時間外受診患者数 (時間外加算、深夜加算、夜間・早朝等加算算定患者) <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度 : 623 件 ・2021 年度 : 399 件
令和 5 年 1 月 現在自施設の担っている政策医療 (5 疾病 5 事業、在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 5 疾病に関して <ul style="list-style-type: none"> ● 現在自施設では、癌に関しては、かかりつけ患者に積極的な癌検診への受診を勧め、少しでも症状ある患者には、胃内視鏡、超音波検査、CT 検査等含む諸検査と連携医療機関の利用、依頼も含め、早期発見に努め、担癌患者に関しては、自施設の入院、関連老人ホームへの入所及び在宅にてターミナルケアを行っている。 在宅がん医療総合診療料レセプト数⇒ 2020 年 38 件 2021 年 37 件 ● 脳卒中に関しては、発症予防として危険因子を有する患者の検査治療及び発症早期の救急対応、慢性期、回復期患者の入院受け入れ、在宅治療、ターミナルケア、外来、入院、入所 (老人ホーム)、在宅の各治療を、急性期専門治療、初期リハビリテーションを除き、一連の対応を地域医療としてコンパクトに実施している。 ● 心筋梗塞時、心血管障害に関しては、危険因子を有する患者への生活指導、治療、発症を未然に防ぎ専門医療機関への紹介、又発症時には迅速な対応を連携医療機関に行い、その後の経過観察保存治療を医療連携の上で行っている。 ● 糖尿病に関しては、糖尿病及び発症前の耐糖能異常患者の抽出を積極的に行

	<p>い、生活指導、食事指導、を行政の保健指導と併におこない、必要であれば適切な薬物治療、食事療法、運動治療の処方、指導を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 精神疾患に関しては、認知症対応として、地域包括ケアシステムの中での専門医療機関、各介護保険サービス担当機関、行政との連携を計り、予防、治療、生活指導等を積極的に行っている。 又、うつ病、統合失調症等専門性の高い疾患については、迅速な専門医療機関への紹介など早期対応を心がけている。 ◆ 5事業に関して ● 救急医療に関しては、地域かかりつけ医としての初期対応を可能な限り行い、軽症患者の治療完治を目標として、基幹病院との連携を図り、救急病院負担の軽減及び重症患者の的確な紹介、かかりつけ医として情報提供を行っている。 ● 災害時に関しては、地域の災害計画に踏まえて、自施設の計画等、入念な準備を行い、発生時には迅速に対応できるよう訓練等を含め十分な準備をしている。 ● へき地医療に関しては、人口減少、高齢化に伴う介護力の減少を目の当たりにしており、在宅医療の困難性に対応するため倉橋島（人口 音戸町 10, 529人、倉橋町 4, 585人、令和 4年 12月現在）唯一の内科系病床施設としての役割を果たしている。 ● 周産期への対応としては、一次医療機関としての一般疾病への対応、事前の予防接種事業と専門医と連携を図っている。 ● 小児医療に関しては、日々の診療に加え、乳幼児健診、定期予防接種、学校医等小児の育成を地域ぐるみで支えてゆく一助となる業務を行っている。 ● 在宅医療に関しては 患者診療実績（訪問診療） <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度：4,676件 ・2021年度：4,654件 在宅医療実績（往診） <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度：1,430件 ・2021年度：659件 を実績として積極的に行っている。
<p>令和 5年 1月 19日現在 自施設担っている新興感染症等対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナウイルス感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナワクチン接種を積極的に行っている。実績として 1回目 2076名 2回目 2043名 3回目 1850名 4回目 1401名 5回目 1067名（2023年 2月 28現在） ・発熱外来を設置し、新型コロナウイルス患者の初期対応を積極的に行う。 ・新型コロナウイルス感染患者の在宅療養の支援、治療を行っている。 ・新型コロナウイルス感染患者の感染後及び隔離終了後の体調の変化対応を積極的に行っている。 ・病棟におけるコロナ感染症の発生を予防し、又発生した場合の隔離、ゾーニング、治療薬の確保をし、発生に準備する。（現在のところ、病棟でのコロナ感染発症はない） ・コロナウイルス感染症の療法（サーベイランス流行、ウイルスの変異状況、治療薬、行政の対応等）を積極的に得ている。 ● 従来のウイルス感染症（インフルエンザ、RSウイルス、アデノウイルス、マダニによる日本紅斑熱、SFTS、ロタウイルス、ノロウイルスなど）への対応も嚴重に従来通り対応している。
<p>R5年 1月 19日現在の他 機関との連携</p>	<p>病診連携としては主に、呉共済病院、呉医療センター、済生会呉病院、一部、中国労災病院に的確迅速な紹介、情報提供を目標として行い、逆紹介の受け入れも活発にかつ効率的な医療、患者の希望・意志を第一として行っている。</p> <p>又、診療所としての診々連携としては、各医療機関の特長、専門性を重視しながら連携を計り、介護関係としては、各居宅支援事業所、サービス事業所、介護施設と連携し地域に根ざした幸せで豊かな生活が送れるように支援している。</p> <p>尚、実績として年間レセプト上では情報提供料として 2020年 483件 2021年 424件 算定している。</p>
<p>R5年 1月 19日現在の 自施設の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 満床が常態化し、長期入院が多い。本院から在宅あるいは他介護施設、在宅等への移行流動性については困難例が多いものの、徐々に改善しつつあり、地

医療法人社団向日葵会角医院2025プラン

令和5年3月作成

域包括ケアシステムでの本院としての役割を十分に果たし、他の介護機関との連携及び本院の在宅医療機能を高めてゆく必要がある。

- 看護職員、介護職員その他職員等人材確保の困難性、人手不足が大きな問題となる。
- 本院には、有床診療所特有の財務基盤の脆弱性がある。これは1床あたりの保険点数の低さに加え、19床という病床数に起因する費用対効果の低さによるものであり、入院診療単独の収支は、三十年前から常に赤字が継続し、今後も黒字転換することは決してないと想定されるため、いかに赤字を少なくするかが病床を維持・継続してゆくための鍵となる。加えて、現在の物価高を考えると現状の保険点数では今後も厳しい状況が想定され、これは大きなマイナス要素である。元来の費用対効果の低さについても触れたが、本院の規模では病床数の削減に合わせて費用を減らすことはほぼできないのに対し、病床削減に伴う収支差額（1床減、2床減）は以下の如くである。

↓

呉医療圏で過剰とされている、慢性期病床の削減を理由に当院に病床削減が求められた場合、経営に与える影響は下記の通りである。

※2020年度・2021年度診療実績をもとに算出。医薬費用等は加味しない。

1床減床の場合

	2020年度	2021年度	2ヶ年平均
診療日数	365日	365日	365日
患者1人1日当たり診療単価	14,835円	14,659円	14,747円
延べ患者数	7,084人	7,188人	7,136人
病床利用率	102.1%	103.6%	102.9%
病床数	19床	19床	19床

	2020年度	2021年度	2ヶ年平均
病床削減後	18床	18床	18床
病床削減後延べ患者数	6,711人	6,810人	6,760人
延べ患者数(差)	▲373人	▲378人	▲376人

	2020年度	2021年度	2ヶ年平均
入院診療収益〈現状〉	105,092,325円	105,372,115円	105,236,789円
病床削減後入院診療収益〈18床〉	99,561,150円	99,826,214円	99,698,010円
入院診療収益(差)	▲5,531,175円	▲5,546,901円	▲5,538,778円

(%)
100.0%
94.7%
-5.3%

2床減床の場合

	2020年度	2021年度	2ヶ年平均
診療日数	365日	365日	365日
患者1人1日当たり診療単価	14,835円	14,659円	14,747円
延べ患者数	7,084人	7,188人	7,136人
病床利用率	102.1%	103.6%	102.9%
病床数	19床	19床	19床

	2020年度	2021年度	2ヶ年平均
病床削減後	17床	17床	17床
病床削減後延べ患者数	6,338人	6,431人	6,385人
延べ患者数(差)	▲746人	▲757人	▲751人

	2020年度	2021年度	2ヶ年平均
入院診療収益〈現状〉	105,092,325円	105,372,115円	105,236,789円
病床削減後入院診療収益〈17床〉	94,029,975円	94,280,313円	94,159,232円
入院診療収益(差)	▲11,062,350円	▲11,091,802円	▲11,077,557円

(%)
100.0%
89.5%
-10.5%

- 経営に及ぼす影響について
2020年度、2021年度の診療単価および病床利用率を基準に病床削減

	(1床または2床)が及ぼす影響について試算した結果、入院診療収益は1床削減の場合は年間約5,500千円減収、2床削減の場合は年間11,000千円減収となる。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時を含め地域患者の急性期、回復期、慢性期、ターミナルケア全てを可能な限り、コンパクトな範囲で対応することを旨とする。 ● 介護関係では、地域包括支援センター、住民患者、各担当ケアマネージャー、介護関連施設の関係者との連携を取り、地域包括ケアシステムの介護と医療の両立に寄与する。 ● 地域、学校医として教育委員会担当学校教職員と連携を取り、学童児童の健康管理に尽力する。感染症流行対策も行う。 ● 地域の乳幼児の健康管理に関しては、乳幼児健診全ての種類のワクチン接種を積極的に行い、地域乳幼児の健康管理に努める。
R7年(2025)、において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<p>患者の状態に応じた円滑な治療病床移行。当院では急性期治療を経過した本地域の患者、特に在宅や施設系への移行がすぐには困難な患者を積極的に受け入れており、患者の状態に応じた医療機能の提供を行っている。</p> <p>従って、圏域内の他医療機関には本院の地域での役割情報を共有し、互いの施設メリットを十分に活用しあう相互信頼関係を構築してゆくことが重要である。</p>
R7年(2025)自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	<p>在宅医療の維持、継続。音戸町、倉橋町の住民が住み慣れた地域で暮らし続けるために急性期～回復期治療を終えた患者を適切なタイミングで受け入れ、在宅医療を提供する。</p> <p>がん、糖尿病、心筋梗塞等、5疾病への対応を現在以上に充実させ、又、5事業についても関連各機関、行政と連携をとり、現状機能をより拡充してゆく。</p>
R7年(2025)自施設の担っている新興感染症等対応	<p>現在と同様、新興感染症に対しては予防～治療まで必要に応じて地域住民への医療提供を行う。</p> <p>新興感染症発生時など有事対応については、外来対応、感染症外来の設置、発熱感染症患者、疑い患者または回復後患者の受け入れ可否の判断体制の整備を行い、連携医療機関、行政等と予め協議し、地域での感染連携体制での役割を踏まえた上で、感染者の動線の確定、ゾーニングの設置等、新興感染症発症等を想定した訓練を実施し、定期的カンファレンス、発生状況等の報告、サーベイランスへの参加、院内感染管理者の設置、感染対策部門の設置、抗微生物薬適正使用の推進、院内感染対策研修会等を行い、整備に努めることとする。</p>
R7年(2025)の他機関との連携	<p>現在以上に機能分化を意識し、急性期治療を要する患者の紹介と急性期治療を経過した患者の逆紹介を推進する。</p> <p>また、自院の病床の流動性を高めるためにも、介護関係の各施設、各サービス事業所と連携を密にし、在宅医療への移行を計ってゆく。</p> <p>疾病者の理解、了解を第一とした上で圏域病床の有効かつ効率的活用が実施されることに貢献することを旨とする。</p>
R6年(2024)からの働き方改革への対応について	常勤医師2名(理事)は管理監督者のため、働き方改革対応に該当しない。(当面、宿日直許可取得の意向はない)
建物の建て替え、改修予定	予定なし。
高額医療機器の購入	予定なし。
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との他医療機関との連携希望など	<p>音戸町、倉橋町の住民が住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域包括ケアシステムでの本院としての役割を果たすために力を入れているが、今後も他の介護機関との連携及び本院の在宅医療機能を高めてゆくためには本院の保有する19床の病床は必要不可欠であると考えている。</p> <p>令和3年9月に日本医師会有床診療所委員会が出した、令和3年度、有床診療所委員会中間答申の中で、地域医療体制を支える、有床診療所の在り方について以下の記述がある。</p> <p>『地域包括ケアシステムの中で大きな役割が期待されている有床診療所の病床を維持するためには経営基盤の整備、安定化が必須である。』</p> <p>しかし、現状の有床診療所の経営状況は厳しく、令和元年度有床診療所の現状調査(日医総研)では、患者1人1日当たり入院収入平均18,557円に対して、入院経費は平均20,805円で、入院患者1人1日当たりの収支は、2,248円の赤字で、年々悪化しており、有床診療所の減少に歯止めがかかっていな</p>

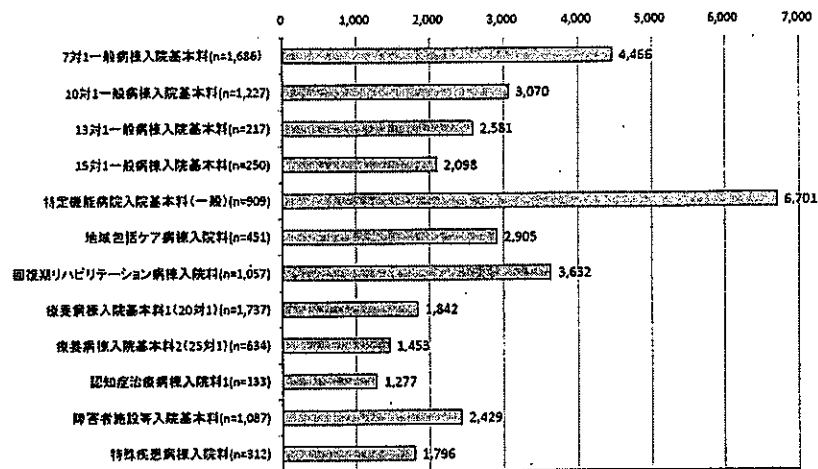
医療法人社団向日葵会角医院2025プラン

令和5年3月作成

い。

多くの有床診療所では入院収支の赤字を外来収入で穴埋めしているのが現状ではあるが、近年の外来患者数の減少傾向の中で、穴埋めも困難になりつつある。有床診療所が存続し、地域医療に有益な病床を維持するためには、少なくとも入院収支の赤字解消が不可欠であり、早急かつ大幅な入院基本料の引き上げが必要である』

<1日当たりのレセプト請求点数(点数/日数)>



※ 専門病院入院基本料は有効回答なし

出典:平成28年度入院医療等の調査(患者票)

当院診療単価平均
(14,747円)

とある。

同様に、現在本院の入院患者の平均年齢は、86.4歳と高いにも拘わらず、低医療費にて、有床診療所としては昭和59年から40年近く連続と医療を提供し病床を維持し続けている。

現状では、様々な施設と出来得る限り多彩な連携を行っているが、本院の入院患者は他施設への移行困難例が多く、入院が長期化するケースも多い。また、患者の状態に応じて在宅医療への切り替えを積極的に行っているが、保有している19床は常に満床である。呉市においては、75歳以上の人口は2025年をピークに徐々に減少する見込みであるが、当地域における高齢化率は依然としてかなりの高さで推移し、入院患者の重症固定化、在宅あるいは他施設への移行困難例は、住民高齢化による老々介護、人手不足による介護力・看護力低下と相俟って在宅あるいは他施設への移行困難例はむしろ増加させる可能性が危惧される。

当面当該地域における医療需要および医療介護提供体制が大幅に変わることがないと思われる上で、2025年に向かう医療適正提供病床調整対策の観点においても、本院は、今後も地域住民への効率的医療提供に努め、地域包括ケアシステムの中であって、高次専門医療機関と在宅及び介護関連機関を繋ぐ“絆”としての有床診療所(繰り返しにはなるが、倉橋島唯一の内科系入院施設として)の役割を、引き続き、19床の病床を全て、1床たりとも欠くことなく、最大限に活用して担って行くことが責務と認識している。

呉市国民健康保険安浦診療所 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	呉市国民健康保険安浦診療所
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	19床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	19床
職員数(令和5年6月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人, 非常勤 1人 ・看護師 常勤 4人, 非常勤 1人 ・事務員 常勤 2人 ・営繕 非常勤 1人
現在(令和5年5月31日現在), 自施設の担っている診療実績(4年度実績)	外来延べ数(年間): 12,195人
現在(令和5年6月6日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	5疾患5事業(周産期医療を除く)、在宅医療の地域の医療体制の充実に協力している。
現在(令和5年6月6日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	予防接種、診断、治療を積極的に行い、対応している。
現在(令和6年6月1日現在)の他機関との連携	中国労災病院をはじめとし、呉市内の2次救急、3次救急病院と連携している。
現在(令和6年6月1日現在)の自施設の課題	安浦町内の他の診療所、クリニックとの連携体制が脆弱である。
R7年(2025)において地域で担う役割	現在よりさらに重要な役割を担うことが予想される。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	自施設との協力体制を充実させて頂きたい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現在よりさらに地域の政策医療に貢献していることが予想される。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	現在よりさらに地域の新興感染症等への対応で貢献していることが予想される。
R7年(2025)の他機関との連携	現在よりさらに他機関と連携していることが予想される。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	R5年7月電子カルテ導入予定で、労務負担の軽減を促進する。
建物の建替え, 改修予定	・建替え、改修予定は現時点ではなし。
高額医療機器の購入	・現時点では購入予定なし。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	過疎化に伴う患者数の減少により減収が予想される。公的機関からの支援を要望する。

医療法人社団豊和会豊田内科胃腸科 2025プラン

令和5年5月31日作成

項目	
病院名	医療法人社団豊和会 豊田内科胃腸科
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	19床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	19床
職員数(令和05年05月30日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 0.18人 ・看護師 常勤 8人, 非常勤 0.2人 ・理学療法士 非常勤 0.75人 ・管理栄養士 常勤1人 ・介護福祉士 常勤7人 非常勤2.1人 ・ヘルパー常勤3人 ・その他 常勤4人 非常勤0.79人
現在(令和05年05月30日現在), 自施設の担っている診療実績 (4年度実績)	外来17,341人 在宅1,364人(総数18,705人) 通所リハビリ3,789人(登録者数64人) 認知症グループホーム6,279人(定員18人)
現在(令和05年05月30日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	5疾病には対応、在宅総数27名
現在(令和05年05月30日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来は対応
現在(令和05年05月30日現在)の他機関との連携	医師会病院、中国労災病院、国立、共済
現在(令和05年05月30日現在)の自施設の課題	病床の廃止
R7年(2025)において地域で担う役割	かかりつけ医機能の充実
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	マイナーな科の在宅診療
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現在の医療体制の維持
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来等の維持
R7年(2025)の他機関との連携	呉地区における5病院との連携
R6(2024)からの働き方改革への対応について	職員に対しては対応済み
建物の建替え, 改修予定	職員休憩施設の充実
高額医療機器の購入	レントゲンAI診断の導入
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	

項目	記載例												
病院名	末光産婦人科												
R4.7.1現在の病床数（総数）	12床												
・高度急性期	0床												
・急性期	12床												
・回復期	0床												
・慢性期	0床												
・休床	0床												
R7.7.1現在の病床数（総数）	12床												
・高度急性期	0床												
・急性期	12床												
・回復期	0床												
・慢性期	0床												
・休床	0床												
職員数（令和5年6月1日現在）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤1人 非常勤 7人 ・看護師 常勤12人 非常勤 5人 ・事務 常勤2人 												
現在（令和5年6月1日現在）、自施設 のになっている診療実績（令和4年度実績）	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">届出入院基本料</td> <td style="text-align: right;">94件</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td style="text-align: right;">5.8日</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td style="text-align: right;">34%</td> </tr> <tr> <td>休日受診患者延べ数</td> <td style="text-align: right;">16人</td> </tr> <tr> <td>夜間時間外受診患者延べ数</td> <td style="text-align: right;">33人</td> </tr> <tr> <td>救急車の受け入れ件数</td> <td style="text-align: right;">0人</td> </tr> </table>	届出入院基本料	94件	平均在院日数	5.8日	病床稼働率	34%	休日受診患者延べ数	16人	夜間時間外受診患者延べ数	33人	救急車の受け入れ件数	0人
届出入院基本料	94件												
平均在院日数	5.8日												
病床稼働率	34%												
休日受診患者延べ数	16人												
夜間時間外受診患者延べ数	33人												
救急車の受け入れ件数	0人												
現在（令和5年6月1日現在）、自施設に担っている政策医療（5疾病5事業、在宅医療）	行っていない												
現在（令和5年6月1日現在）、自施設に担っている新興感染症等対応	抵抗力の弱い産婦及び新生児の対応を行っているので受け入れていない												
現在（令和5年6月1日現在）の他機関との連携	2次救急を担い、3次救急は呉医療センターへ												
現在（令和5年6月2日現在）の自施設の課題	特になし												
R7年（2025）において地域で担う課題	出生数の減少												
R7年（2025）において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現状維持												
R7年（2027）、自施設に担っている政策医療（5疾病5事業、在宅医療）	行う予定なし												
R7年（2027）、自施設に担っている新興感染症等対応	特になし												
R7年（2025）の他機関との連携	現状維持												
r6（2024）からの働き方改革への対応について	現在申請中												
建物の建て替え、改修予定	特になし												
高額医療機器の購入	特になし												
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	出生数の減少												

眼科 宍道医院 2025プラン

令和5年2月作成

項目	
病院名	眼科宍道医院
R4.7.1現在の病床数(総数)	6
・高度急性期	
・急性期	6
・回復期	
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	6
・高度急性期	
・急性期	6
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和 5年 2月 20日現在)	医師常勤1名非常勤1名 看護師常勤3名非常勤2名
現在(令和 5年 2月 日現在), 自施設の担っている診療実績 (R3年度実績)	届出入院基本料 6 平均在院日数 1 休日に受診した患者延べ数 68人 夜間時間外に受診した患者延べ数 64人
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	
現在(令和 5年 2月 日現在)の他機関との連携	中国労災病院・広大病院・呉医療センター・木村眼科内科病院
現在(令和 5年 2月 20日現在)の自施設の課題	特になし
R7年(2025)において地域で担う役割	白内障手術等一般眼科
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	高度医療
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	
R7年(2025)の他機関との連携	今まで通り
R6(2024)からの働き方改革への対応について	
建物の建替え, 改修予定	予定なし
高額医療機器の購入	予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	特になし

真鍋外科・整形外科 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	医療法人真住会 真鍋外科・整形外科
R4.7.1現在の病床数(総数)	7
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	0
・慢性期	0
・休床	7
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	7
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	0
・慢性期	0
・休床	7
職員数(令和5年6月1日現在)	10
現在(令和5年6月1日現在)、自施設の担っている診療実績 (R5年度実績)	入院は年間通して全床休床中、外来は整形外来部門の1次診療を行っている。
現在(令和5年6月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	なし
現在(令和5年6月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	なし
現在(令和5年6月1日現在)の他機関との連携	呉市医師会病院、国立病院機構呉医療センター、呉共済病院、呉労災病院
現在(令和5年6月1日現在)の自施設の課題	財政状態の悪化、後継者不足
R7年(2025)において地域で担う役割	1次医療
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現状維持
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	特になし
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	なし
R7年(2025)の他機関との連携	現在の連携を維持する
R6(2024)からの働き方改革への対応について	特になし
建物の建替え、改修予定	なし
高額医療機器の購入	なし
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	経営の維持

医療法人社団 石井外科診療所 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人社団 石井外科診療所
R4.7.1現在の病床数(総数)	10床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	10床
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	10床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	10床
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年3月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人 ・看護師 常勤 3人 ・准看護師 常勤 8人 非常勤 1人
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・有床診療所入院基本料1(6床)、平均在院日数46日、1日平均入院数4.2人 ・有床診療所療養病床入院基本料(4床)、平均在院日数94日、1日平均入院数1.8人 ・訪問診療延回数1425件、在宅での看取り18名 ・在宅患者急変時の自院入院1件、在宅患者の自院入院での看取り1件、 ・自院入院患者の看取り4件 ・休日に受診した患者延べ31名、夜間時間外に受診した患者延べ37名、 ・救急車の受入れ17件、うち入院12件
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	整形外科疾患患者・軽症肺炎等の入院加療、がん患者の術後入院でのリハビリテーション、がん患者生活期における外来診療、がん患者の緩和治療、在宅医療、入院による看取り、心不全患者の外来診療、呼吸器疾患に対する在宅酸素療法、糖尿病患者に対する在宅療養支援等を担っている。
現在(令和5年3月1日現在), 新興感染症に対し行っている医療	発熱患者の診療、PCR検査または抗原定性検査の実施、COVID-19治療薬の処方、電話による感染症患者の診療、入院患者が感染した場合の入院加療の継続等を行っている。
現在(令和5年3月1日現在)の他機関との連携	1次救急を担い、2次救急は主に中国労災病院・呉共済病院・呉医療センターへ。主に回復期を担う。
現在(令和5年3月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による地域の医療需要の減少が見込まれること、 ・在宅医療の需要増に対し受け入れ能力に限りがあること
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院退院患者を受け入れ、在宅復帰に向けたリハビリ・支援の調整を行う ・外来・在宅患者の急性増悪に対応した入院機能 ・入院が必要な患者の看取り機能
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・中国労災病院には、圏域内の急性期医療を担ってほしい。 ・呉市医師会病院には、他病院から急性期を脱した回復期、レスパイト入院、高齢患者の検査入院を受け入れてほしい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん、心筋梗塞、脳血管疾患、在宅医療を担う予定
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	感染対策を行ったうえでの外来診療・検査。急性期治療を終え、感染性が低下したのちの患者を受入れ。
R7年(2025)の他機関との連携	1次救急を担い、2次救急は中国労災病院・呉共済病院へ。主に回復期を担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・医師の宿日直許可申請を行う予定。看護師の宿日直許可はすでに取得。

建物の建替え, 改修予定	・現在予定はない。
高額医療機器の購入	・何をいつ頃購入するか確認。 ・購入に合わせて他医療機関との共同利用,機能分担・連携の考えについて確認。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	入院ニーズの減少, 看護職員の確保に不安あり。

早川クリニック 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	早川クリニック
R4.7.1現在の病床数(総数)	19床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	19床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	19床
・休床	
職員数(令和5年3月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤3人,非常勤0.3人 薬剤師 常勤1人 作業療法士 常勤10人 ・看護師 常勤20人,非常勤1.2人 看護補助者 常勤11人,非常勤0.5人 ・その他 常勤15人,非常勤1.6人
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (R3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・休日受診患者延べ数 187人, 夜間時間外受信患者延べ数 372人 ・平均在院日数=6,565 / ((59+60) / 2) ≈ 111 ※2 稼働率=6,565 / (19 * 365) ≈ 94.66%
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	精神疾患、在宅医療(訪問看護)を担っている
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来対応予定
現在(令和5年3月1日現在)の他機関との連携	2次、3次救急医療機関との連携
現在(令和5年3月1日現在)の自施設の課題	慢性期患者の高齢化による医療スタッフ負荷の増大
R7年(2025)において地域で担う役割	行政機関からの依頼による精神疾患患者の受入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	2次、3次救急医療機関の充実
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	精神疾患、在宅医療(訪問看護)を担う予定
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来
R7年(2025)の他機関との連携	2次、3次救急医療機関との連携
R6(2024)からの働き方改革への対応について	特になし
建物の建替え, 改修予定	予定なし
高額医療機器の購入	予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	特になし

石泌尿器科医院 2025プラン(参考資料)

令和5年5月作成

項目	
病院名	医療法人社団 石泌尿器科医院
R4.7.1現在の病床数(総数)	4床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	0床
・慢性期	0床
・休床	4床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	4床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	0床
・慢性期	0床
・休床	4床
職員数(令和5年5月30日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人 ・看護師 常勤 1人、非常勤 2人
現在(令和5年5月30日現在)、自施設の担っている診療実績	休床中
現在(令和5年5月30日現在)、自施設の担っている医療圏(5疾病5事業、在宅医療)	尿路上皮癌(腎、尿管、膀胱、前立腺など)、在宅医療
現在(令和5年5月30日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	院内スペースの理由で受け入れていない
現在(令和5年5月30日現在)の他機関との連携	手術、入院が必要である状態の場合、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院、呉医師会病院などと連携して紹介している。
現在(令和5年5月30日現在)の自施設の課題	・高齢で通院困難になってきている患者に対するの対応(在宅医療への切り替え、かかりつけ内科への処方依頼など)
R7年(2025)において地域で担う役割	・泌尿器科分野における急性期から回復した、また術後安定している患者の受け皿として対応していく
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・もう少し逆紹介をして頂きたい
R7年(2025)、自施設の担っている医療圏(5疾病5事業、在宅医療)	尿路上皮癌(腎、尿管、膀胱、前立腺など)、在宅医療を拡充していく
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	院内スペースの理由で受け入れていない
R7年(2025)の他機関との連携	・泌尿器科分野における急性期から回復した、また術後安定している患者の受け皿として対応していく
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・現状の医療提供体制の確保のために看護師の一定数確保が必要
建物の建替え、改修予定	・2009年に現在の場所に移転してより10年以上経つことより経年劣化による改修が必要となってきている
高額医療機器の購入	・レントゲン装置、膀胱内圧測定検査装置、エコーなどの小さな故障、交換部品の不足あり。不具合あれば買い替え予定。
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	医師常勤1人のため休床中であり、増員の予定はないため再運用の見通しは立っていない。

中央内科クリニック地域医療構想に係る2025プラン

令和5年1月作成

項目	
病院名	中央内科クリニック
R4.7.1現在の病床数(総数)	19床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	19床
・慢性期	0床
・休床	0床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	19床
・慢性期	0床
・休床	0床
職員数(令和5年1月26日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤4人, 非常勤1.7人 ・看護師 常勤23人, 非常勤2.0人 ・看護助手 常勤2, 非常勤1.2 ・臨床工学技士 常勤15人 ・理学療法士 常勤1人 ・管理栄養士 常勤2人
現在(令和5年1月26日現在), 自施設の担っている診療実績(令和3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・有床診療所入院基本料1 ・平均在院日数 306日 ・稼働率 0.5 ・夜間時間外診療件数 3,623件
現在(令和5年1月26日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	糖尿病, 在宅医療を担っている。
現在(令和5年1月26日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	入院患者の多くが透析患者であり、罹患すると重症化リスクが高い為、受け入れていない。
現在(令和5年1月26日現在)の他機関との連携	必要時応じて、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院などの基幹病院へ患者を紹介。主に、回復期から慢性期を担う。
現在(令和5年1月26日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による医療需要の減少が見込まれる。 ・透析治療の病床数の空きが少なく、治療体制の見直しが必要。 ・定年時期が近い職員が多く、今後、新たな人員の確保が必要。 ・物価上昇による医療資材のコストアップ。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓内科を中心として展開し、慢性腎臓病の悪化を防ぐ為に、専門性のある治療を行い、必要に応じて基幹病院への紹介を行う。 ・リハビリテーションを織り交ぜた治療で、回復期から慢性期患者の治療を行う。 ・呉市東部(島嶼部含む)の透析治療を支える施設としての役割を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	糖尿病, 在宅医療を担っていく。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来は対応を継続していく予定。その他、外来機能で可能と判断される範囲で対応していく予定。透析患者においても、外来治療の受け入れを想定している。
R7年(2025)の他機関との連携	主に、呉医療センター、呉共済病院、中国労災病院などの基幹病院へ患者を紹介。回復期から慢性期を担い、相互の連携を図っていく。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	既に対応済み。
建物の建替え, 改修予定	なし。
高額医療機器の購入	電子カルテ及び人口透析システムの更新を検討中。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	

医療法人社団仁井谷医院(にいたにクリニック) 2025プラン

令和5年3月作成

項目	記載例
病院名	医療法人社団仁井谷医院 にいたにクリニック
R4.7.1現在の病床数(総数)	19
・高度急性期	0
・急性期	11
・回復期	0
・慢性期	8
・休床	0
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年3月15日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤3人、非常勤1.2人 ・看護師 常勤21人、非常勤2.1人 ・准看護師 常勤1人、非常勤1.0人 ・病棟介護士 常勤2人、非常勤0.9人 ・理学療法士 常勤12人、非常勤2.5人 ・作業療法士 常勤3人 ・医療事務員 常勤8人、非常勤1.8人 ・放射線技師 常勤1人、非常勤0.3人 ・歯科衛生士 常勤3人 ・歯科助手 常勤1人
自施設の担っている診療実績(令和3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・有床診療所(届出入院基本料:一般・療養, 平均在院日数:20.23日、病床稼働率:100%) ・施設毎(休日に受診した患者延べ数と夜間時間外に受診した患者延べ数合計:4件、救急車の受入れ件数:98件)
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	2次救急受け入れ 骨・運動器疾患における専門医療の提供・形成外科疾患外科的手術適応者受け入れ、みなし訪問看護・訪問看護を含む在宅医療を担っている。
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	院内発症例については治療継続。2次救急受け入れや急性期(術後)患者など受け入れありマンパワーの問題と 感染症に対する隔離環境が確立していないため積極的な受け入れはできない。
現在(令和5年3月15日現在)の他機関との連携	2次救急を担い、3次救急は呉医療センター・共済・労災病院等基幹病院へ。急性期を脱した患者については回復期を担う、中通り・横山病院などや、包括ケア病床を持つ医師会・済生会呉病院・横山病院などへ連携を図っている。
現在(令和 5年3月15日現在)の自施設の課題	2次救急受け入れ後 予定入院期間が2週～4週にて経過良好であっても、生活背景や既往などの合併もあり元の生活への復帰が困難な事例が増加していることが課題にある。包括ケア病床へのスムーズな転院支援及び在宅での生活支援のため訪問看護・リハビリなどの事業の強化により、課題解決を目指す。
R7年(2025)において地域で担う役割	在宅や施設からの急性増悪した高齢者を受け入れる役割 または 受け入れ後に適材適所に退院支援する。新規の介護保険の申請支援やその後の地域包括・介護サービスへの連携。骨折などの早期治療・早期離床のための 2次救急受け入れを担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	在宅や施設からの急性増悪した高齢者を受け入れる場合、基礎疾患の増悪や高齢化により全身状態の悪化が著しいものもあり。また原因不明瞭な症例も多い中、3次受け入れ病院には早期に転院などの受け入れ調整を期待する。またかかりつけ医などで患者側が入院を希望している場合も 受け入れしてもらえない例もあるためその場合は情報共有などを密に行い、地域全体で個人を移ることができるよう、支援的立場での医療補佐を希望する。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	2次救急受け入れ 骨・運動器疾患における専門医療の提供・形成外科疾患外科的手術適応者受け入れ、みなし訪問看護・訪問看護を含む在宅医療を担っている。
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	院内発症例については治療継続。2次救急受け入れや急性期(術後)患者など受け入れありマンパワーの問題と 感染症に対する隔離環境が確立していないため積極的な受け入れはできていない。
R7年(2025)の他機関との連携	2次救急を担い、3次救急は呉医療センター・共済・労災病院等基幹病院へ。急性期を脱した患者については回復期を担う、中通り・横山病院などや、包括ケア病床を持つ医師会・済生会呉病院・横山病院等へ連携依頼している。

R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・A, 連携B(派遣する病院), B(救急医療等)のどの水準にするか。 →A水準 ・現状の医療提供体制の確保のために医師は確保できるか。 →現状の充足状態を維持可能なため問題なし。
建物の建替え, 改修予定	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、建物の建替えや改修の予定はございません。
高額医療機器の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、高額医療機器の購入予定はございません。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	<ul style="list-style-type: none"> ・呉市内における人口減少(流出)が年々進んでいることから、将来的なマンパワー不足や患者様の減少を懸念している。

島の病院おおたに 2025プラン

令和5年5月作成

項目	
病院名	医療法人社団大谷会 島の病院おおたに
R4.7.1現在の病床数(総数)	96
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	70
・慢性期	26
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	96
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	70
・慢性期	26
・休床	
職員数(令和5年4月1日現在)	<その他、薬剤師、言語療法士など、必要に応じて追記してください。> 別紙3参照
現在(令和5年5月1日現在)、自施設の担っている診療実績	・病棟毎(届出入院基本料、平均在院日数×1、病床稼働率×2など) 別紙1参照 ・施設毎(休日に受診した患者延べ数、夜間時間外に受診した患者延べ数、救急車の受入れ件数など) 別紙2参照
現在(令和5年4月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	在宅医療を担っている
現在(令和5年4月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来、アフターコロナの入院受入、当院で発症したコロナ感染患者の対応
現在(令和5年4月1日現在)の他機関との連携	島内の2次救急を担い、3次救急は急性期病院へ。急性期を脱した患者については当院へ。主に回復期を担う
現在(令和5年4月1日現在)の自施設の課題	人材の確保 江田島市健診率が低い為、健診体制の確立(手軽に受けられる人間ドック)
R7年(2025)において地域で担う役割	・地域における回復期機能の一翼を担う、 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・地域における回復期機能の一翼を担う、 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	在宅医療を担う
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来、アフターコロナの入院受入、当院で発症したコロナ感染患者の対応
R7年(2025)の他機関との連携	島内の2次救急を担い、3次救急は急性期病院へ。急性期を脱した患者については当院へ。主に回復期を担う
R6(2024)からの働き方改革への対応について	医師の働き方改革のため多職種で役割分担をし、医師の勤務体系の見直しの実施
建物の建替え、改修予定	予定なし
高額医療機器の購入	検討中
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	医師の確保に課題があり、近隣の医療機関、介護施設等との連携強化。

2023年4月期 病床報告

	地域包括	医療療養	回復期
入院基本料	地域包括ケア病棟入院料1	療養病棟入院基本料1	回復期リハビリテーション病棟入院料1
1日平均入院患者数	38.3	24.9	29.6
平均在院日数	37.4	82	60.7
在宅復帰率	82.60%	66.60%	96.20%
平均病床稼働率	93.50%	91.60%	95.40%

2022年度救急件数

	時間外		時間外 (救急当番日)		深夜		深夜 (救急当番日)		休日		平日時間内		総合計
	救急車受入	救急外来	救急車受入	救急外来	救急車受入	救急外来	救急車受入	救急外来	救急車受入	救急外来	救急車受入	救急外来	
4月	1	12	3	4	1	0	8	1	6	14	6	6	56
5月	2	2	4	0	2	1	0	1	0	16	7	7	35
6月	7	6	3	1	0	1	1	0	1	5	10	10	35
7月	5	8	7	7	1	0	0	2	3	16	9	9	58
8月	4	4	3	2	0	2	1	0	4	74	10	10	104
9月	2	1	5	3	2	0	3	0	2	5	4	4	27
10月	4	4	2	3	0	0	2	2	5	25	15	15	62
11月	2	2	4	0	2	0	1	0	0	4	5	5	20
12月	7	7	2	1	1	2	2	0	3	30	9	9	64
1月	3	8	8	1	0	0	3	0	5	36	11	11	75
2月	4	2	5	0	4	1	2	1	4	19	8	8	50
3月	5	3	2	1	1	0	2	1	1	4	11	11	31
小計	46	59	48	23	14	7	25	8	34	248	105	105	617
合計	105		71		21		33		282		105		617

別紙3

- ・ 医師 常勤 11人, 非常勤 2.5人
- ・ 看護師 常勤 52人, 非常勤 0.5人
- ・ 准看護師 常勤 12人, 非常勤 0.7人
- ・ 看護補助 常勤 19人, 非常勤 0.5人
- ・ 理学療法士 常勤 39人
- ・ 作業療法士 常勤 13人
- ・ 言語聴覚士 常勤 5人
- ・ 薬剤師 常勤 3人
- ・ 管理栄養士 常勤 2人
- ・ 放射線技師 常勤 3人
- ・ 臨床検査技師 常勤 3人
- ・ その他 36人,

医療法人社団仁風会 青木病院 2025プラン

令和5年7月作成

項目	
病院名	医療法人社団仁風会 青木病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	78
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	0
・慢性期	78
・休床	0
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	78
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	0
・慢性期	78
・休床	0
職員数(令和5年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤5名 非常勤13名 ・薬剤師 常勤1名 ・看護師 常勤14名 非常勤2名 ・准看護師 常勤18名 非常勤1名 ・看護補助者 常勤15名 非常勤5名 ・理学療法士 常勤5名 作業療法士 常勤3名 言語聴覚士 常勤1名 ・管理栄養士 常勤4名 ・放射線技師 常勤1名 非常勤3名 ・臨床検査技師 常勤1名 臨床工学技士 常勤2名 ・通所リハビリテーション事業所 常勤3名 非常勤1名 ・その他 事務員・調理員 常勤13名 非常勤8名
診療実績(令和4年度実績)	<p>療養病棟入院基本料 療養病棟入院料1(2病棟78床) 平均在院日数 115日 病床稼働率 99% 救急車受入件数 150回 救急受入患者 380人 訪問診療等 延 約4800回 通院・入院透析 19台</p>
現在(令和5年4月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	<p>がん、脳卒中、心筋梗塞のフォローアップを行っている。糖尿病は治療・指導・教育入院等を行っている。 救急医療は1次救急を行っている。江田島市内で起きた災害には可能な限り対応している。 在宅医療は訪問診療・訪問看護・訪問リハ・往診・看取りなど行っている。</p>
現在自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来を行っている。
現在の他機関との連携	1次救急を行い、当院での対応が難しい患者は広島・呉地域の基幹病院に受入てもらっている。急性期を脱した患者については積極的に逆紹介を受け入れている。
現在の自施設の課題	有資格者の確保
R7年(2025)において地域で担う役割	入院・入所・在宅での生活等、法人全体(病院・介護老人保健施設・通所リハビリテーション・ヘルパー・居宅介護支援事業所サービス付き高齢者向け住宅)として地域住民のニーズに応えていく
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特になし
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	現在行っていることを継続していく
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	現在行っていることを継続していく
R7年(2025)の他機関との連携	現在行っていることを継続していく

R6(2024)からの働き方改革への対応について	公的病院の無い江田島市で、救急や夜間の受入を行っていきながら、宿日直許可がとれるのだろうか
建物の建替え, 改修予定	2022年3月より 増改築後の建物で診療を開始している
高額医療機器の購入	特に予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	特になし

はまい会大君浜井病院 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	大君浜井病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	35床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	35床
・休床	
職員数(令和 年 月 日現在)	医師常勤3名 非常勤2名 薬剤師 非常勤3名 理学療法士常勤3名 作業療法士常勤1名 看護師 常勤13名 非常勤5名 放射線技師1名 補助看 常勤4名
現在(令和5年6月21日現在)、自施設の担っている診療実績 (R4年度実績)	療養病棟入院基本料2 平均在院日数34日 休日受診358件 夜間受信101件 救急車の受け入れ 152件 稼働率20人
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん・糖尿病
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	受け入れていない
現在(令和 年 月 日現在)の他機関との連携	急性期を脱した患者の回復期の受け入れ
現在(令和 年 月 日現在)の自施設の課題	地域の医療需要の減少が見込まれることから現状の体制を維持するべきが否か検討が必要
R7年(2025)において地域で担う役割	かかりつけ医としての役割
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	2次医療機能として呉医療センター、共済病院へお願いしている
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん・糖尿病
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	受け入れていない
R7年(2025)の他機関との連携	急性期を脱した患者の回復期の受け入れ・看取り
R6(2024)からの働き方改革への対応について	連携B
建物の建替え、改修予定	スプリンクラー設置(R6年春)(R5年補助金申請予定) R6年秋からR7年5月建物外装修理
高額医療機器の購入	内視鏡
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	職員確保

森藤医院 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	森藤医院
R4.7.1現在の病床数(総数)	19
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	10
・慢性期	9
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期	0
・急性期	0
・回復期	10
・慢性期	9
・休床	0
職員数(令和 5年 6月 23日現在)	常勤医師2人、看護師9人、看護助手3人、事務4人、調理3人、その他広島大学より非常勤医派遣あり
現在(令和 5年 6月 23日現在), 自施設の担っている診療実績 (〇年度実績)	有床診療所 救急車受け入れ有り
現在(令和 5年 6月 23日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	救急受け入れ 在宅診療あり
現在(令和 5年 6月 23日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	普通に受け入れている
現在(令和6年5月23日現在)の他機関との連携	江田島市のみならず広島市や呉市の医療機関と連携している
現在(令和6年5月23日現在)の自施設の課題	職員の確保が困難になってきている。将来的に維持できない可能性高い。
R7年(2025)において地域で担う役割	現在と同様
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現在と同様
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現在と同様
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	現在と同様
R7年(2025)の他機関との連携	現在と同様
R6(2024)からの働き方改革への対応について	対応困難です。
建物の建替え, 改修予定	古くなっている場所を限定的に修理しながら存続。
高額医療機器の購入	予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	人口減少、老老介護、限界集落です。

澤医院 2025プラン

令和5年6月作成

項目	
病院名	澤医院
R4.7.1現在の病床数(総数)	18
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	5
・慢性期	13
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	18
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	5
・慢性期	13
・休床	
職員数(令和4年7月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤2人、非常勤0.1人 ・看護師 常勤1人、非常勤0.4人 ・准看護師 常勤4人、非常勤0.4人
現在(令和4年7月1日現在)、自施設の担っている診療実績(○年度実績)	有床診療所入院基本料、平均在院日数36.6日、病床稼働率31.8% 休日に受診した患者延べ数:82人 夜間時間外に受診した患者延べ数:25人 救急車の受け入れ件数:18件
現在(令和4年7月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん、在宅医療を担っている。
現在(令和4年7月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者の受け入れ
現在(令和4年7月1日現在)の他機関との連携	可能な範囲での救急の受け入れ 回復期を担う
現在(令和4年7月1日現在)の自施設の課題	人員不足による無床診療所への変更等、現状を維持するべきか検討が必要。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会における在宅医療の普及 ・在宅から急性増悪した患者の受け入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・おおたに病院、浜井病院は基本的に救急要請を断らないでほしい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん、在宅医療を拡大していく。
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者の受け入れ
R7年(2025)の他機関との連携	回復期、慢性期を担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の医療提供体制の確保のためコメディカルは確保できるか。
建物の建替え、改修予定	特になし。
高額医療機器の購入	レントゲン、CTの保守期間が近づき、今後どうするか検討
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	コメディカルの確保に課題あり。

